第 30 次 研 究 プ ロ ジ ェ ク ト

研究紀要

『幼児理解から考えるカリキュラム・マネジメント』

令和６年３月

一般社団法人 大阪府私立幼稚園連盟教育研究所

発刊にあたって

令和５年５月から新型コロナ感染症は５類に移行し、私たちの施設にようやく今までの教育・保育活動が戻ってきました。一方それまでの間も、教育研究所のプロジェクトはコロナ禍においても、「幼児教育の充実・質の向上のために、研究や研修を止めない」という思いで、この第30次プロジェクトはコロナ感染防止に配慮する中でのスタートとなりました。プロジェクトに参加された先生方にとっては、学生時代に学んだこと、教職に就いて教育・保育に携わって経験したり、研修で学んだりしたことをさらに発展させ、自園での研究の枠を超えて、新たな学びに挑戦したことにも大きな意義があったと考えています。

さて、今回のテーマは「幼児理解から考えるカリキュラム・マネジメント」です。各園で作られる指導計画が、子どもたちを理解した上で作成されているか、幼児理解とは乖離したところで指導計画を作る作業に陥っていないか今一度見直し、真に子どもたちの成長のための指導計画を目指してプロジェクトが始まったと聞き及んでおります。

本書は実際の教育活動事例を通しての「子ども理解」から始まり、具体的なカリキュラム・マネジメント計画へと進みます。子ども理解の中には様々な視点があること、指導計画の立案にとどまらず、次の保育に活かせる週日案についても踏み込んでいます。また、Before・After形式で研究前後の計画の違いを示したり、教育活動に携わる先生なら誰しも体験する「トキメキ」や「ヒラメキ」といったわくわく感を子ども理解のポイントにしたりする等、園長先生はもとより実際に教育活動を進める先生方に共感してもらえる内容となっています。そして、最後は園内での共通理解といった一歩踏み込んだ研究発表となっております。

さらに、本書を各園・各教職員の皆様にご覧いただくだけでなく、幼児教育の現場ではこうした子ども理解に基づいた教育活動が計画され実践されることを、保護者をはじめとした多くの方々にも知っていただくために役立ってくれれば、幼児教育の重要性への理解がさらに進むのではないかと思います。

末筆になりますが、ご指導・ご助言をいただきました大阪総合保育大学の瀧川光治先生に感謝と御礼を申しあげます。また、子ども理解の上に成り立つ指導計画に強い思いを持った教育研究所所長の岡部祐輝先生をはじめ、第30次プロジェクトを進めてこられた諸先生方に感謝申しあげます。
そして、本書をご覧いただき、各園の先生方がそれぞれの視点や手法で子どもへの理解を進められ、より質の高い幼児教育が展開される指導計画作成の一助となることを期待いたします。

（一社）大阪府私立幼稚園連盟
理事長　奥　野　　宏

目　次

第１部　園内で子ども理解を共通理解していくために ―― 3

第１章　園内で子ども理解を共通理解していくために ―― 5

第２章　子ども理解にあたって大事だと思うこと ―― 15

第３章　子ども理解から考える指導計画 ―― 27

第４章　子ども理解に基づき、次の保育に活かせる週日案を作っていくには ―― 38

第２部　「幼児理解から考えるカリキュラム・マネジメント」の考え方の整理とポイント ―― 51

第３部　園内で共通理解していくためのポイント ―― 61

第１章　子ども理解を園内で共有するために ―― 63

第２章　子ども理解をカリキュラムに活かすには？ ―― 66

おわりに ―― 73

～２年間のプロジェクトを終えて～

第30次プロジェクトチーム参加者

★講師　大阪総合保育大学　児童保育学科　教授	瀧川　光治
認定こども園小松幼稚園	小北　千賀
幼保連携型認定こども園光の園幼稚園	竹内　里奈
あけぼのほりえこども園	津田　恵彩
池田五月山教会幼稚園	前田　彩乃
認定こども園ひじりひがし幼稚園	中嶋由紀子
幼保連携型認定こども園庄内こどもの杜幼稚園	森山　葵
認定こども園せんりひじり幼稚園・ひじりにじいろ保育園	湯浅　優典
認定こども園日吉幼稚園	上田　沙季
幼保連携型認定こども園いまむらこどもえん	平山　麻貴
幼稚園型認定こども園畷幼稚園	関本　佳菜
大阪ひがし幼稚園	長森麻衣子
認定こども園御幸幼稚園・さくらんぼ保育園	宮原奈緒美
認定こども園金田幼稚園	吉岡　裕香
大阪樟蔭女子大学附属幼稚園	奥山　雅
大阪商業大学附属幼稚園	松本　美彩
白鳩羽曳野幼稚園	西野　桃果
認定こども園新光明池幼稚園	内田　雅代
幼稚園型認定こども園高槻双葉幼稚園 (一社)大阪府私立幼稚園連盟教育研究所　所長	岡部　祐輝
幼保連携型認定こども園光の園幼稚園 (一社)大阪府私立幼稚園連盟教育研究所　副所長	小池　聖子
認定こども園せんりひじり幼稚園・ひじりにじいろ保育園 (一社)大阪府私立幼稚園連盟教育研究所　副所長	安達かえで

第30次プロジェクト設立と活動の経緯

現在の幼児教育においては、「何を子どもに経験させるか」という視点から、「子どもの何が育つか」ということを大切に考えられるようになっています。また、幼児理解に基づいた評価（文部科学省，2019）では、次のような記述が見られます。

「*幼児を理解するといっても、幼児の行動を分析して、この行動にはこういう意味があると決め付けて解釈をすることではありません。まして何歳にはこのような姿であるというような一般化された幼児の姿を基準として、一人一人の幼児をその基準に照らして、優れているか劣っているかを評定することではないのです。また、幼児と幼児を比較して誰が誰より優れているか劣っているかを評定することでもありません。*」

このように、現在の幼児教育では、比較したり、基準に対する高低のみで判断したりするのではなく、一人ひとりの子どもの姿をしっかりと見取り、そしてその子どもの行動や姿等から、保育者がその背景や意味、子どものつぶやき等を解釈し、評価を行い、次の手立てにつながっていくことが重要と言えます。

しかし、重要な保育者の行為であることは理解できても、どのように子どもの理解を行い、それらを踏まえて次の手立てを考えたり、その一連の過程を計画に結びつけたりすればよいかということは、一度の研修やレクチャーだけでは深い理解を行うことが難しい状況があると考えました。

そこで、第30次プロジェクトでは、「幼児理解から考えるカリキュラム・マネジメント」というテーマのもと、約２年間の実践研究を行ってきました。このテーマに込めた思いは、「幼児理解だけでもない」、「保育計画を考えるだけでもない」ということの表れであり、幼児理解をベースとして、そこからつなぎ、広げ、子どもの姿に応じて、計画や手立てが柔軟に変わっていくことを強調したいということでした。

本プロジェクトに集まった参加メンバーの園では、保育計画の立案、保育の振り返りの会の実施、園内研修での学び等、それぞれに取り組みはしているものの、時間的な要因等もあり、幼児理解をベースとしたカリキュラム・マネジメントに必要な要素を深めていくことが難しいと、当初感じているメンバーも多くいました。

そのような状況の中で、講師である大阪総合保育大学の瀧川光治先生は、幼児理解を行う視点を例会のレクチャーの時間でご示唆くださったり、「トキメキ」、「ヒラメキ」というキーワードで子どもの姿を見取り、見取ったことをもとに考えたりする等、道筋をたくさんお示しくださいました。参加メンバーがこの思考過程を歩み、そして自園でも様々な実践を重ねた中で、「何を」、「どのように」、「どうやって」、「何のために考えるのか」ということを参加メンバーが学び、研究を深めることができ、本紀要に掲載している多くの事例の生成につながったと考えます。

本紀要を読んでくださる方々におかれましては、ぜひ自園の現在の位置（取り組み状況／取り組んでいること／何をする必要があると考えているか等）を思い浮かべていただき、参加メンバーや園が、どのような位置から、このカリキュラム・マネジメントに挑もうとしたかということを我がごととして読んでいただけると幸甚です。

参加メンバーにとっては、毎月の例会自体がまさに園を越えての「幼児理解から考えるカリキュラム・マネジメント」であり、体験的に行うことができた２年間でもあったかと思います。２年間の取り組みに心から敬意を表します。

また私どもの実践研究や、取り組みを受容し、様々な見方・考え方をご助言いただき、お支え頂きました瀧川光治先生にこの場をお借りして深く御礼申しあげます。

（一社）大阪府私立幼稚園連盟
教育研究所　所長　　岡　部　祐　輝

第１部

園内で子ども理解を共通理解していくために

第１章　園内で子ども理解を共通理解していくために
第２章　子ども理解にあたって大事だと思うこと
第３章　子ども理解から考える指導計画
第４章　子ども理解に基づき、次の保育に活かせる週日案を作っていくには

第１章
園内で子ども理解を共通理解していくために

はじめに

「幼児理解から考えるカリキュラム・マネジメント」のテーマについて話し合う中で、まずは「指導計画作成時の留意点と課題」について考えました。

＜指導計画作成時の留意点と課題＞

留意点

○５領域、１０の姿に照らし合わせて育ちの偏りがないか確認する

○他学年や異年齢のカリキュラムとの照らし合わせを行い、縦の育ちを考える

○その年の子どもの姿を捉え、子どもの姿をどう反映させるか

○保育者間で子どもの姿やカリキュラムの内容について共通理解ができているか

課題点

○年間、月案、週案とつながりをもって活用することが難しい

○計画通りに進めることが難しい

○話し合う時間の確保が難しい

留意点と課題を整理すると「共通理解が必要である」と感じているが、話し合う時間の確保が難しく共通理解ができなかったり、子どもの見方を深められなかったりするという現状があることがわかってきました。そこで、この問題の解決策を探っていきました。

＜各園の子どもの共通理解＞

各園で時間の使い方はそれぞれ違いますが、子どもの姿について日々話をしながら保育を進めているということは共通しています。その時間を有効に使うためには話し合う内容が大切であるのではないかと考えました。日々の子どもの姿を話す際に「〇〇とけんかしていたよ」「今日は〇〇してあそんでいたよ」等を報告することはあります。子どもの姿を話す際に、どのようなことを話すと「幼児理解」につながる話し合いになるか、遊びの写真をもとに考えていきます。

１枚の写真について色々な経験年数の保育者で読み取りを行いました。その中で、１年目と１０年目の保育者の読み取り方を比べてみました。

＜事例の見方＞

写真を見て話し合ったことを経験年数で色分けしています。

事例１

３歳児、６月の姿です。
５月から他学年が園庭に咲いているツツジを使った色水遊びを見て、
３歳児の子どもたちも興味を持ち、遊び始めました。

花びらを落として遊んでいた

カップを使っていた

今日は２人で水遊びをしている

年長児のしていることを真似たいみたい

友達のしていることに興味を持ち始めた

自ら遊び出すことができている
園生活に慣れてきた

事例についての考察

１年目の保育者

◎表面的な読みとりになりがち
◎遊びの流れが出てきにくい

１０年目の保育者

◎これまでの子どもの姿を反映させて成長を読みとっている
◎縦のつながりを意識している
◎子どもの心の動きに注目している

事例２

５歳児、５月の姿です。
園庭の一角で泥遊びが始まりました。
自分たちで砂に水をかけ泥を作り、遊んでいました。

泥遊びが好き

泥が気持ちいい

３人で仲良く泥遊びをしている

いつも一緒に遊んでいるわけではなく、泥遊びを通して３人の仲が深まっている

泥の感触だけでなく、土や水の性質を遊びの中で知り活かしている

泥遊びが好きで長期間遊びが継続している

事例についての考察

１年目の保育者

◎子ども達の様子の一場面を読みとっている
◎一場面から見られる興味や関係性を読みとっている

１０年目の保育者

◎子どものこれまでの遊びや興味の傾向をふまえて読みとっている
◎子どもの興味が何に向いているのかを探っている
◎３人のこれまでの関係性も考えている

２つの事例から１年目の保育者と１０年目の保育者では子どもの読みとりに違いがあることが分かりました。経験を重ねることで子どもの深い読み取りが可能になるので、子どもの姿について話をする際は様々な経験年数の保育者が一緒に話をすることが保育者のスキルアップに繋がり、保育者間の有効な話し合いになると考えました。しかし、経験によっては漠然と話を進めるより、ポイントを絞ることで理解しやすくなると考え、読み取りの視点を設けて、再度話し合いを行いました。

「子どもたちが何を楽しんでいると思いますか？」に視点を置いて、写真について話し合いました。その後、アンケートを取りました。

事例３

３歳児、５月の姿です。
保育者が水の入ったタライを用意すると、周りに集まって遊び始めました。
砂場や保育室から使いたい物を持ってきて遊んでいます。

水の気持ちよさや感触、水が流れ落ちる音を感じている

友達と一緒に水を流すことを楽しんでいる

トンネルの向きや水の流れの向きを変えて遊ぶ

カップで水をすくうことを楽しんでいる

事例４

３歳児、１１月の姿です。
園庭の落ち葉を集めて、バーベキューごっこを楽しんでいた。
その後、室内にも遊びが広がり、コンロや食べ物を作って遊び始めている様子です。

バーベキューを楽しんでいる

見立て遊びを楽しんでいる

友達との会話のやりとりを楽しんでいる

好きな遊びを個々に楽しんでいる

話し合いについてのアンケート（事例３・４の話し合いについて）

① 話し合いをしてどうでしたか？

② 他の保育者の意見を聞いてどう思いましたか？

③ やりにくいと感じた点はありますか？

④ やりにくいと感じた点はどうしたら改善されると思いますか？

アンケート結果

① 話し合いをしてどうでしたか？

・それぞれに見る視点が違ったり、共感できる点があったりして面白かった。
・一枚の写真からでも同じように想像している保育者と違う想像をしている保育者がいて改めて見え方はたくさんあると感じた。

② 他の保育者の意見を聞いてどう思いましたか？

・色々な目で子どもを見ていく大切さを感じた。
・自身の視野の狭さに気づくことができた。
・立場（経験）で意見が違うことが面白かった。

③ やりにくいと感じた点はありますか？

・自分が発言することで他の人が話しにくいのではないかと感じた。
自分ばかりが発言しないためにはどうしたら良いか悩んだ。
・話を引き出せるような司会役がいるかいないかは大きいように感じる。

④ やりにくいと感じた点はどうしたら改善されると思いますか？

・少人数のグループにする。
・司会進行役が話を振っていく。

アンケートの結果から次回の話し合いでは・・・

☆司会進行の保育者を決める

☆小グループ（４，５人程度）にする

☆見方のポイントを加える

この改善点を加えて話し合うと、司会役がいることで色々な保育者が発言することができたり、話が整理されてスムーズに話し合いを進めたりすることができました。また、少人数のグループにすることで、話しやすい雰囲気になり、意見が言いやすく活発な話し合いを行うことができました。

その中でも次の話し合いでは、見方のポイントについて焦点をさらに絞り、１人の子どもについて話し合いをした。

「見方のポイントを加える」
という点について

見方のポイント　「一人に焦点をあてて話し合う」

事例４の写真の中の一人に焦点を当てて話し合ってみました。

何か気になる物があるのかな
一点を見つめている

ジュースを見ている

ジュースがカラフルでたくさんあると思っている

ジュースをきれいに並べるのが好きなのかな？たくさん並べて面白い

狭い空間が
落ち着くのかな

喧嘩をした後の表情なのかしょんぼりしている？

見方のポイントを加えると、更に子どもの行動や目線に注目するようになり具体的に「何をしているのか」「何を見ているのか」等をしっかりと捉えることができました。また、子どもの姿の読みとりの際に保育者は「内面」「表情」「視線」に注目しながら行っていることも分かりました。

＜視線に注目している＞
・何か気になる物があるのかな。一点を見つめている
・ジュースを見ている

＜内面に注目している＞
・狭い空間が落ち着くのかな
・ジュースがカラフルでたくさんあると思っている
・ジュースをきれいに並べるのが好きなのかな？たくさん並べて面白い

＜表情に注目している＞
・喧嘩をした後の表情なのかしょんぼりしている？

これまで、幼児理解を中心に話を進めてきましたが、研究テーマである「幼児理解から考えるカリキュラム・マネジメント」について考えていくと、保育者が日頃から行っている「視線」「内面」「表情」に注目した幼児理解の方法はカリキュラム・マネジメントにも活かすことができるのではないかと考えます。例えば、日々の保育の後に反省を書く際に、こうした３つの視点を意識しながら反省を書くと、より深く日々の保育を振り返ることができるのではないでしょうか？

（例）

反省	○

振り返りを行う際に、３つの項目を意識して書き出すと子どもの姿を捉えやすくなる。

☆目線　○内面　■表情

※今回の研究では３つの視点が出てきたが、今後も幼児理解のスキルを磨く中で、様々な視点を探っていく必要がある。

まとめ

「幼児理解から考えるカリキュラム・マネジメント」を行うには、まず子どもの姿を深く読みとるスキルを身につけることが必要であると感じました。研修や日々の会議、終礼等において様々な経験年数の保育者が集まり、子どもの姿を話し合うことで読みとりの引き出しを増やすことができると考えます。幼児理解を踏まえて指導計画の作成に取り組むことができると、より子どもに合った計画を作ることができ、保育者にとっても日々の保育に活かせる指導計画になるのではと考えます。今後も幼児理解のスキルを磨き、日々の保育や指導計画作成に臨みたいと思います。

第２章

～子ども理解にあたって大事だと思うこと～

私たちのグループでは「子ども理解にあたって大事だと思うこと」をテーマに、どのような視点で子どもの姿を捉えて読み取り幼児理解に繋げていくかを考えてきました。

研究内容としては、事例を元に子どもの姿からどんなことにトキメキやヒラメキを感じているのか、その中でどんなことが育っているのかを１０の姿や５領域と結びつけて子どもの育ちを深く考えていきました。
また、指導計画を立てていく中で振り返りの視点にも課題点が見つかり、どのような振り返りの方法が次の保育に繋がっていくのかを話し合ってきました。

それでは早速、４歳児９月頃の子どもたちの遊びの様子から、子どもの思いや育ちを読み取っていきましょう！

この写真を見て、
子どもたちはどんなことに
“トキメキ”を感じていると思いますか？

写真から【子どもの姿】を読み取る

アサガオをはじめ、色々な種類の花を試している子どもたち。そのうち「(花だけではなく)葉っぱならどうかな？」「試してみたいな。」という気持ちから、緑色の葉っぱや、茶色の枯れ葉を試していく等、好奇心や探究心が見られる。

どのくらいの量の水を入れたらいいのかわかりにくく、多めに入れてみたり少なめにしたりと、様々な量を加減して試す姿が見られる。何度も試していく中で、水の量を少なくすると色が濃くなることに気づき始めている。

○○色になった！

水は少なめがいいよ！

枯葉はなかなか色が出ない…

混ぜたら色が変わった！

葉っぱだったらどうかな？

次はどうしていこうかな…？こんなことしてみたいな。と子どもたちはどんどん興味関心がわいてきて、ワクワクした気持ちが表情から読み取れる。
また、友達同士で会話し、共有していくことで共感してもらったり新たな方法を見つけ出したりする機会となっている。

保育者の視点

5領域

健康

色水遊びを伸び伸びと
味わっている姿

人間関係

友だちと工夫しながら
一緒に活動する楽しさ

環境

興味関心を持ち、考え
たり発見を楽しむ姿

表現

色水の美しさに気づく
豊かな感性

言葉

発見したことや気づき
を言葉で表現し、伝え
合う喜び

１０の姿

思考力の芽生え

色水を作る為の道具の使い方や仕組み等が
わかり、どうすれば綺麗な色水ができるの
か考えたり枯れ葉だったら色が出るのか予
想したりする

自然との関わり・生命尊重

花や葉っぱ等、身近な自然物の
不思議さや面白さを感じる

**数量や図形、標識や
文字等への興味・関心**

花の色がよく出る水の量を考え、
調節する

言葉による伝え合い

友達と気づきや試行錯誤している
様子を伝え合いながら
進めていく姿

健康な心と体	自立心	協調性	道徳性 規範意識の芽生え	社会生活との 関わり
思考力の 芽生え	自然との関わり・ 生命尊重	数量や図形、標識や 文字等への興味・関心	言葉による 伝え合い	豊かな感性と 表現

５領域や 10 の姿に当てはめながら、今「子どもたちは何を楽しんでいるのか」「どんなところに興味関心を持っているのか」「子どもたちの思いや考えを汲み取る」ということを意識して子どもの内面や育ちの読み取りを深めていくことが大切なのだと感じました。また、それを基に、遊びや活動の次への見通しを立てていきます。

手立て

手立てを考える時に大切にしたいポイント

① 短期的・長期的見通しをもつ

考えている手立てが長期的なものか、それとも短期的なものかという部分に視点を置きましょう。
短期的というと、目先のこと、つまり翌日～数日のこと、
長期的になると、数週～１ヵ月程度のことを指します。

遊びの継続を考えていく中で、すぐに遊びを発展させたり素材をたくさん出したりしていくのではなく、まずは遊びや素材に対して親しみを持ち、遊び込む楽しさを感じられることが大切です。
「またやりたいな！」「もっと！」「こんな風にしてみたらどうなるだろう…？」というように、子どもの思いや考えが広がっていくような手立てを考えていきましょう。
子どもたちの姿から今後どのように発展していくのかを予測・見通していく中で、それは短期的な姿なのか、長期的な姿なのかを見極めていくことが必要になっていきます。

色水遊びの事例から考えてみましょう！　※Web 図参照

・ひとつのお花を何度もすりつぶし、１回目と２回目で出てくる色の変化に気づく
　また、様々な種類の花びらでも試そうとする
・すりつぶす際の力加減を工夫することでも色に変化が見られることに気づく

→ 短期的見通し

・葉っぱや枯れ葉、木の実等、お花以外の様々な自然物を使って試そうとする
・色水に名前を付けることでジュースやさんごっこに発展していく

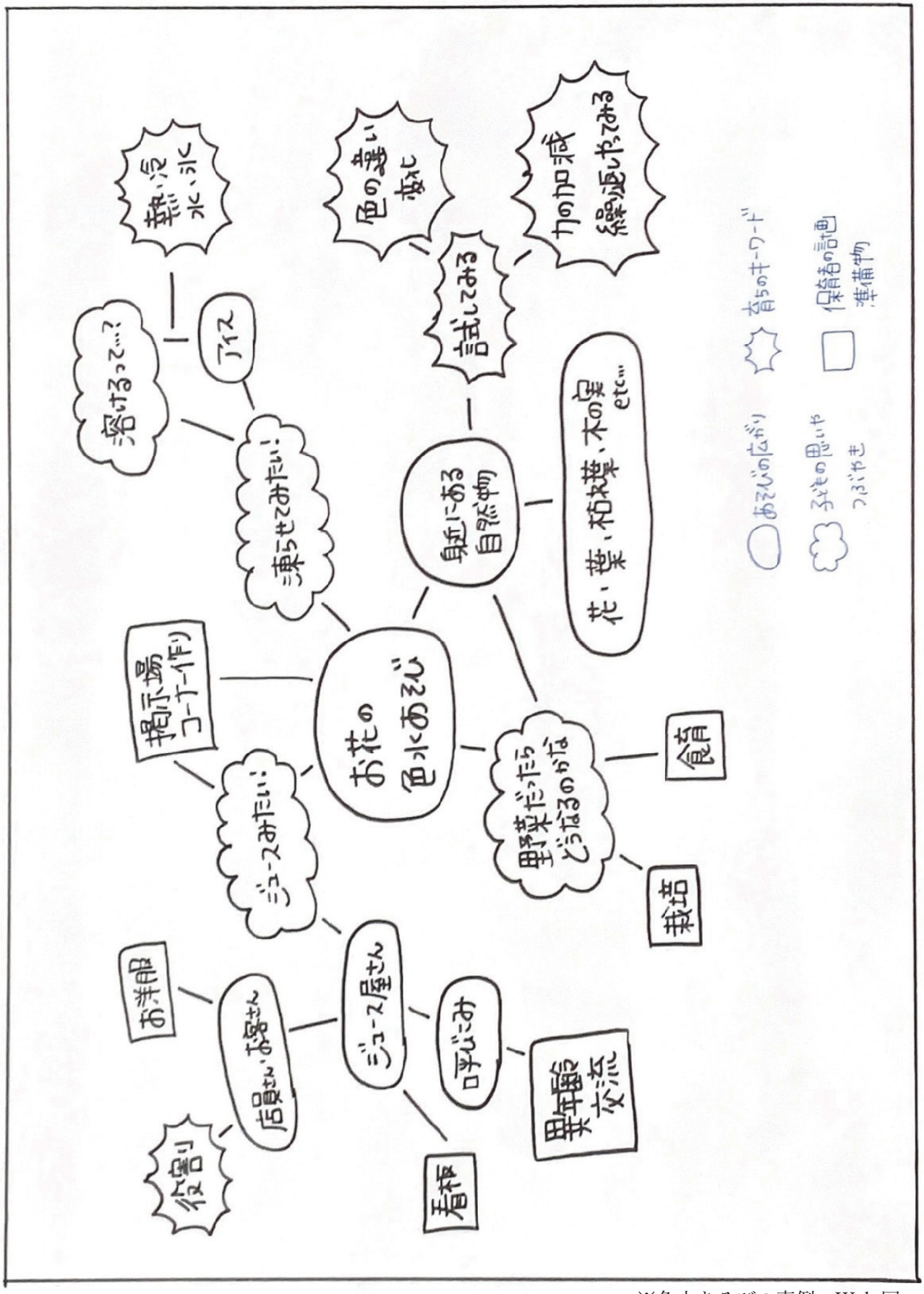
→ 長期的見通し

② 保育者の関わり

子ども一人ひとりの姿を捉えると共に呟きを逃さず拾い、クラスや友達に共有しながら遊びを広げていくことで継続した遊びを展開させていきましょう。
また、育ちを考えていく中で、子ども自身が気づけるような声掛けや環境整備も大切ですね。

③ 環境

見通しや保育者の関わりを考えていくと同時に環境構成も考えていく必要があります。
予想される姿を考えつつ、その姿に合わせた環境整備や素材の準備をし、日々の子どもの姿に合わせて遊びが継続していくよう変化させていきましょう。
また、遊びの中で育っていること・これから育っていききそうなこと・育ってほしいことや課題を保育者間で考え共通理解し、だからこそ！このねらいで保育を進めていこう！という計画の立て方が大事になっていきます。



※色水あそびの事例　Web 図

振り返り

子どもの姿から
読み取ってみよう♪

子どもたちの反応を振り返る

・発見したこと
　→どんなことにトキメキを感じていたかな？
　→何に興味を持っているのかな？
・今の育ち
・今後の育ち

次はどうなるかな？

・どのように発展していくのか
・どのように次に繋げていくのか

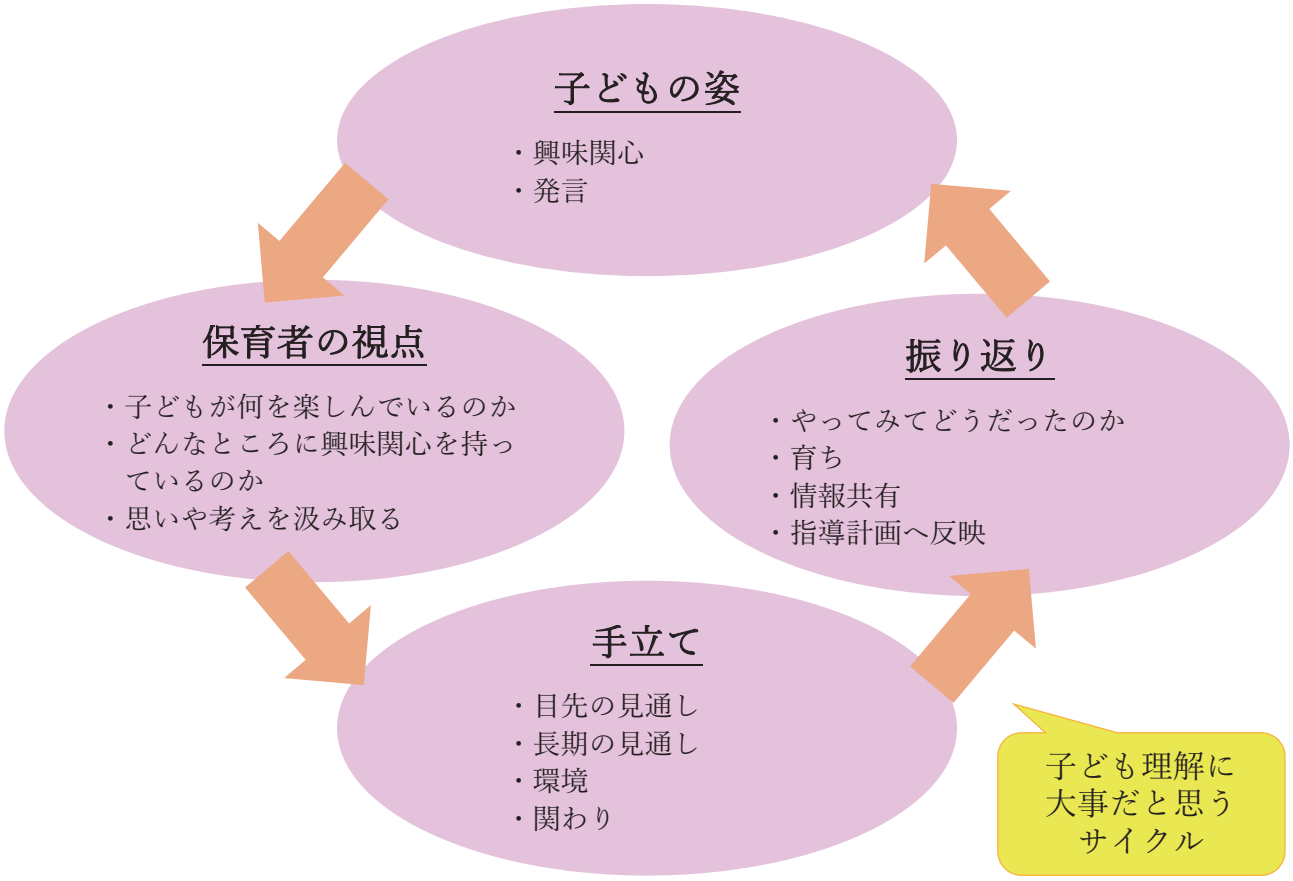
環境構成や必要な物を考える

→ドキュメンテーションを作ったり写真や絵本を掲示したりする等…

保育者間での情報共有

・今、どの部分を楽しんでいるのか
・今の育ちを伝え合う
・どのような手立てが必要なのか

ドキュメンテーションや記録を指導計画に繋げていくことが課題に出てきました



子どもの姿

子どもたちが主体的に興味関心を持ったことを自由に楽しむところから始まります。
遊びの中で子どもたちは様々な気づきや発見をしたり好奇心や探究心を持ったりして、次はどうしようと試行錯誤したり友だちと共有してみたりしながら会話が弾んだり、経験を積んでいきます。

保育者の視点

子どもたちの姿から何を楽しんでいるのか、どんなところに興味関心を持っているのか、子どもたちの思いや考えを汲み取る等、保育者の視点で見ていきます。

手立て

そこから見えてくる姿からその遊びは長期の見通しが必要なのか、短期の見通しなのかを子どもたちの様子を見ながら手立てを考えていきます。
それらによって適当な環境を整えたり素材の内容や出し方を考えたりしていきます。

振り返り

次に実際に保育をしていきながら、見えてくる子どもたちの反応はどうだったか、どんな育ちが見られるのか、今後どのような育ちが見られるのか等を踏まえ振り返っていきます。

この４つをサイクルのように繰り返していくことが『子ども理解』に大切なことだと考えています。
また、これらを保育者間で情報共有し指導計画へと反映させていく必要があります。
先にも書きましたように、指導計画と実際の保育を結び付けていくことがこれからの課題です。

振り返りの課題として、
感想や日記になっていたり具体性に欠けていたりすることに気づきました。
そして、次に繋げられるような保育を行うために、PDCAサイクルを元に項目を分けた振り返りの方法に変えてみました。

～Before～

振り返り

～After～

日（　）　【主な活動】
DO（子どもの姿）
CHECK（保育者の振り返り）
PLAN（だから…）

このような日々の振り返りの方法を取り入れることで、今の子どもたちの姿がより見えてくるようになります。
そしてそのような振り返りの記録を、次の週や月の指導計画に反映させていければ良いと思います。

振り返りの視点を一緒に考えていきましょう！

１１月１日（月）　【主な活動】
DO〈子どもの姿〉
・戸外に落ちていたアサガオの花びらを集めていた
・「これで色水してみたい！」と提案した子をきっかけに色水あそびが始まった
・水の量や混ぜる際の力加減を調節することが難しく、机や床には水がたくさん零れている

【その日の子どもの姿】
→トキメキ・ヒラメキ

CHECK〈保育者の振り返り〉
・秋の自然や身近な自然に親しみを持っている
・花びらを遊びに使えないかという豊かな発想やひらめきが見られる
・水が零れることも気にならないくらい色水あそびに夢中になっている一方、水が零れないようにしないと！と量の調節に気づく子もいる

【保育者の振り返り】
→その中での気づきや育ちと保育者の反省

PLAN〈だから・・・〉
・色水になるまでの過程で何を感じ、気づいているのかを見極めながら言葉にして伝えていく
・水が零れるからダメ、ではなくタオルを用意したり水の量や力の加減に自ら気づけたりするように声を掛けていく

【だから…】
→あそびの発展と計画や改善

８日（月）　【主な活動】
DO〈子どもの姿〉
・「タオルを下に敷いていたら零れても大丈夫！」「水はちょっとずつ足していった方がいいかも！」という工夫が出てきた
・色水に○○ジュース、と名前を付け、太陽の光が当たる場で並べている

次の日に繋げていく!!

CHECK〈保育者の振り返り〉
・遊びの中で様々な感情に出会ったり経験していったりする中で、「じゃあこうしてみよう！」と考え、工夫してやってみようとする姿が見られ始めている
・太陽の光が当たることで陰にも色がうつる様子を楽しんでいる

PLAN〈だから・・・〉
・感じたことや気づいたことを周りの友達にも共有し、友達からの刺激を受けたり取り入れたりしながら継続して遊びが続くよう環境を整えていく
・陰について気づけるきっかけを拾い、太陽の光の当たる向きや日向と日陰を知る機会に繋げる

下に雑巾敷いたらこぼれても大丈夫♪

お水を少なくしたらこぼれないかも!!

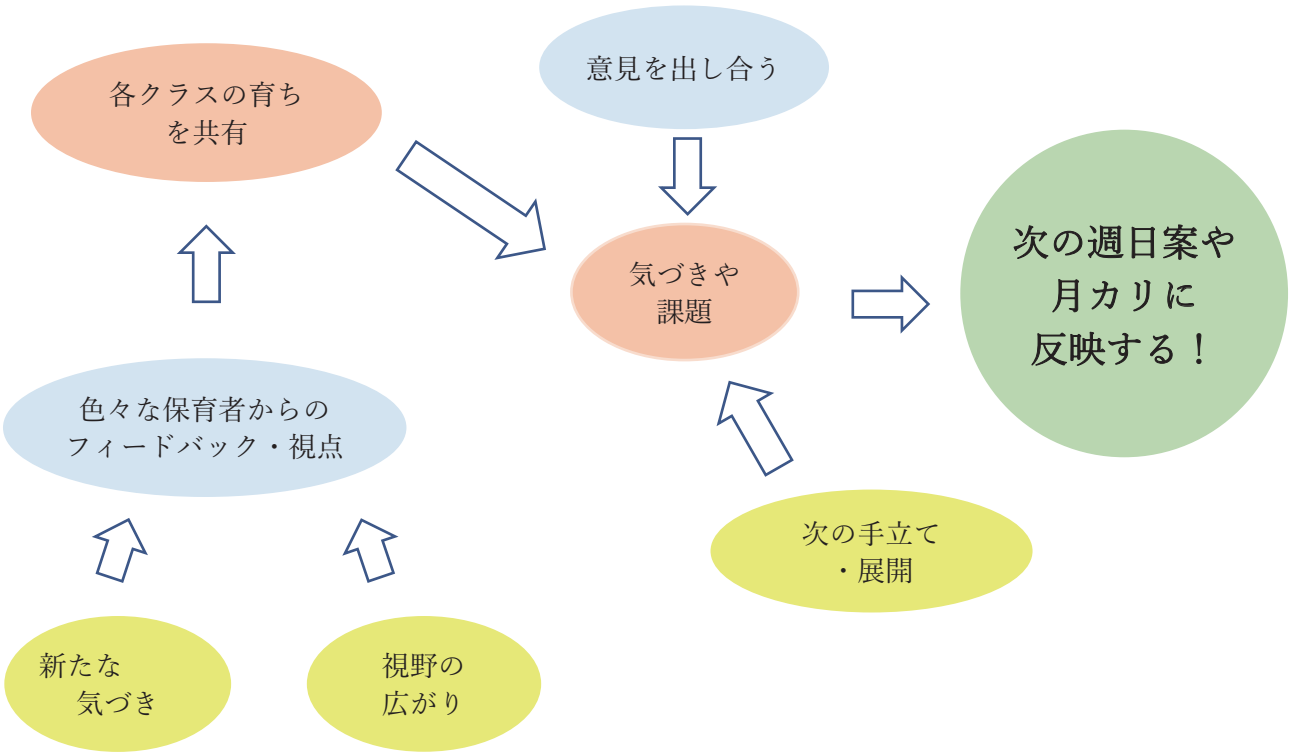
年中さんの３クラスで今週どんな遊びが広がっていたのか、どんなところが育っているのかを共有してみましょう♪

Aクラス	Bクラス	Cクラス
○日（　） 【色水あそび】	○日（　） 【たこやき屋さんごっこ】	○日（　） 【駒大会】
DO（子どもの姿） ・戸外に落ちていたアサガオの花びらを集めていた ・「これで色水してみたい！」と提案した子をきっかけに色水あそびが始まった ・水の量や混ぜる際の力加減を調節することが難しく机や床は水がたくさん零れている	DO（子どもの姿） 遊ぶ中で、「頭につけるハチマキほしい」「お金作ってくる」等遊びの中で必要なものを保育者に尋ねたり、作ったり、自分たちで考え遊ぶ姿がある。 お店屋さん役、お客さん役のやりとりを楽しむ姿がある。	DO（子どもの姿） ・保育者がいないとトーナメント戦の大会は進められないが、保育者が近くにいると自分たちでくじ引きをしたりトーナメント戦の線を書き足していったりと、トーナメント表を理解しながら進められるようになってきている
CHECK（保育者の振り返り） ・秋の自然や身近な自然に親しみを持っている ・水が零れることも気にならないくらい色水あそびに夢中になっている一方、水が零れないようにしないと！と量の調節に気づく子もいる	CHECK（保育者の振り返り） お店屋さん役をやりたい子どもが多く、お客さん役がいない時にどうしたらお客さんが来てくれるのかを投げかけると、以前年長さんが゛貼り紙゛を貼っていたことを思い出し「貼り紙作ったら来てくれるかも」と貼り紙作りを始め、経験を活かしていた。	CHECK（保育者の振り返り） ・勝った人同士で勝負していって上位を決める。というトーナメント戦のルール表を用いて説明しながら実践していったことで周知できている
PLAN（だから…） ・色水になるまでの過程で何を感じ、気づいているのかを見極めながら言葉にして伝えていく ・水が零れるからダメ、ではなくタオルを用意したり水の量や力の加減に自ら気づけたりするように声を掛けていく	PLAN（だから…） お店屋さん役、お客さん役等のやり取りを深められるように、他クラスへも視野が広がるよう関わる。	PLAN（だから…） ・くじ引きを活用し、トーナメントの数字と別にマークを書き、同じマークをひいた友達と１対１の勝負ができるようなルールも取り入れる

健康な心と体	自立心	協調性	道徳性 規範意識の芽生え	社会生活との 関わり
思考力の 芽生え	自然との関わり・ 生命尊重	数量や図形、標識や 文字等への興味・関心	言葉による 伝え合い	豊かな感性と 表現

例えば、会議等保育者間での共有や振り返りの際に、Ａクラス、Ｂクラス、Ｃクラスが日誌を活用しながら子どもの育ちを読み取り共有します。そして、そこにプラスで５領域や１０の姿に当てはめて図式化してチェックすることで各クラスの育ちや領域の偏りに気づくきっかけになります。

振り返りを保育者間で共有しよう！



保育者間で共有することで、色々な保育者からの視点での気づきもあります。
また、自分のクラスの育ちだけでなく、他クラスの子どもの姿やその中での育ちを共有することで、さらなる課題が見つけられたり伸ばしていきたいところも見えてきたりします。
課題が見えた時には、保育者間で意見を出し合うことで保育の展開が見えてくると思います。
それを踏まえ、次の日週案、月カリに組み込んでいくことが大切だと思います。また、教育課程と照らし合わせ、今の子どもの育ちや成長段階を読み取っていくことが大切です。

私たちのグループで考えた「子ども理解に当たって大事だと思うこと」は、子どもの興味関心を出発点として、それに沿ってねらいや指導計画を立てることです。そして、保育者間で共有し、常にカリキュラムに反映されているかを確認することが必要だと思います。
そのためには、この PDCA サイクルを意識して保育していくことが大切だと考えています。

第3章　子ども理解から考える指導計画

指導計画を作成していく上で「子どもを理解すること」は欠かせないもの。
そして、今の子どもの姿から次の計画を立てることが望ましい。

分かっているけど・・・

はたして、今の指導計画と
繋がっているのだろうか

各園から持ち寄ったポートフォリオ、ドキュメンテーションを元に、様々な

保育者の視点を通して子どもの興味関心を読み解き、

子どもを理解してみました。

ポートフォリオ、ドキュメンテーションから…

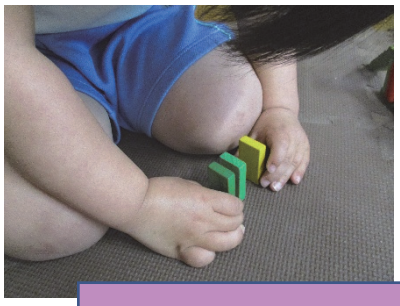
- ☑ 子どもが何を感じているのかを読み取る
- ☑ 子どもの育ちを考える

ポートフォリオから子どもを理解する

事例１

先生！見て～ （5歳児･4月）

年長組の部屋にしかないドミノ！！！
新しい玩具に目をキラキラさせながら遊んでいる〇君♪
「先生！見て～」とドミノを積んだモノを見せてくれました。



思考力の芽生え

今度は並べて、倒して･･･を繰り返し･･ドミノの遊び方に気づいた様子♪
速く倒れることが面白かったようで繰り返し遊んでいました。

協同性

最後は友達と一緒に！！に発展～！
遊びの中で試行錯誤しながらいろんな発見をした〇君。
これからの遊びの展開がますます楽しみです。

様々な保育者の多様な視点から考えられる育ち

新しい玩具の楽しさや色々な遊び方があることに気づき
もっとやりたい！と意欲的に取り組んでいる姿 → 自立心

友達と一緒に行う中でのやりとり→言葉で伝え合う姿 → 協同性

事例２

ひじりっこポートフォリオ

Ｋちゃん（4歳児・7月）

自然との関わり

わぁ！
このむらさきの　み
かわいい～！！

豊かな感性

とれる？
このへんに
いっぱいあるよ！

社会生活との
関わり

園庭で『こむらさき』 の小さな実と、『ナンキンハゼ』の実がついた枝を見つけたＫちゃん。「これ可愛い色だね！」と枝から実をとっていき、手から落ちないように集めていきます。その実を使って外のままごとコーナーのお鍋にお水と一緒に入れ、おいしそうなご飯を作っていました。それを見ていた年少さんが「やりたーい！」と言うのを聞いて、実の付いた枝を持ってきてあげたＫちゃん。「ここにあるよ！」と教えてあげ、年少さんが実を集めるまで取りやすいように枝を持ってあげていました。「このお鍋で一緒に作る？」と年少さんの顔を覗き込んで優しく聞いてあげる Ｋ ちゃん。かぞくの友達に寄り添い関わる中で、役に立つ喜びを感じることができていますね！

様々な保育者の多様な視点から考えられる育ち

経験したことや考えたこと等を言葉で伝えたり、相手の話を聞いたりする姿 → 言葉による伝え合い

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で自分の力で行うために考えたり工夫したりしながら、自信をもって行動する姿 → 自立心

ポートフォリオやドキュメンテーションを作成し、それをもとに話し合うことで

子どもを理解するうえで見えてきたもの・・・

①『子ども一人ひとりをしっかり見つめていくこと』

一人担任では
クラス全体を見てしまい
毎日一人ひとりと
向き合えているかな？

自分一人の考えや視点だけでは
狭い考えの中で止まってしまう。

そこで・・・
客観的に見てもらうことで考えの
幅が広がる！

②『担任だけの視点ではなく、客観的に見てもらうことで気づくこともある』

③『ポートフォリオやドキュメンテーションを作成するだけでなく、記録として残し計画に繋げていく』

**クラスの様子がわかるように指導計画の中に
内容を取り込み、記録として
残していくことで他の保育者にも
子どもたちのことを理解してもらえるのでは？**

ポートフォリオやドキュメンテーションを活用して

子どもの遊びや活動を次に繋げるには…

子どもの姿・遊びの様子

↓

見通しをもつ 翌日～1 週間後～1 か月後

↓

手立て 具体的な環境構成・援助・配慮

●子どもの姿を知る

一人ひとりを“あたたかなまなざし”で丁寧にみる

その子の性格や特性等を含めて、丸ごと理解する

その子の色々な場面を多様的に捉えていく

●子どもの興味関心を活動に取り入れる

何に心が動いているのか？

どんなことに、トキメキながら遊んでいるのか？

●子どもの遊びを発展させる

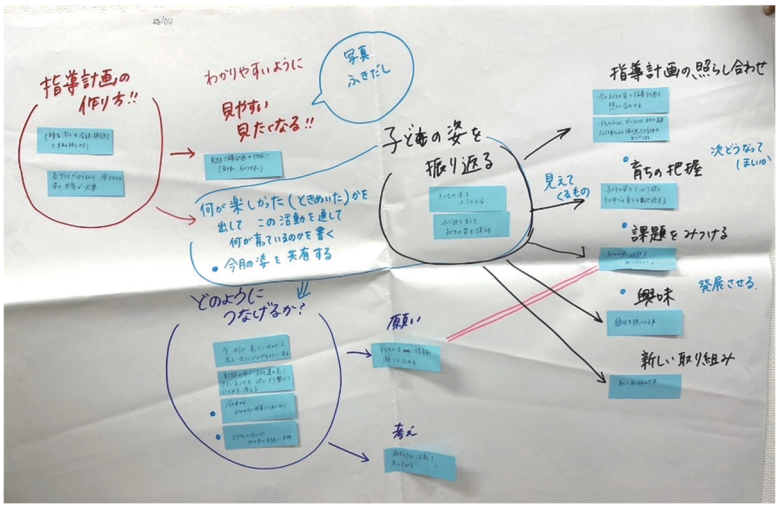
トキメキが持続するには、どんな手立てが必要なのか？

新たなヒラメキやイメージが生まれるにはどんな環境が必要なのか？

子どもの姿に見通しをもって活動を変化させ、次に繋げていくことが大切である

子どもの姿を指導計画に活かすための考え方やポイント

ポートフォリオやドキュメンテーションを通して、子どもの姿を共有することは、担任が気づかなかった一面や育ちを知ることができ、今、何が育っているのか？また、その育ちを次につなげるためには、何が必要なのかを多様な視点で考えることができると思います。そして、その視点をもとに、保育者が見通しをもち、具体的な環境構成や活動内容、援助や配慮等を考えていくことで子どもを理解した指導計画になるのではないかと思います。



日々の保育を振り返り、子どもを理解するために、私たちが大切にしたいこと、子どもの姿と指導計画をどのように結びつけるのが望ましいかを考えてみました。

私たちの思い・大切にしたいこと☆

子ども理解
- ・子どもの姿を振り返ると見えてくる
- ・子どもの姿をしっかり捉え、その中での育ちを把握する
- ・興味関心、何に心がときめいているのかを知る

どのように繋げる？
- ・育ってきていることを次にどう繋げていくかを考える
- ・今の姿からどのように成長してほしいか
- ・どうなってほしいかを次の月の計画に反映

計画のために
- ・保育者同士の会話、振り返りをできる限りおこなう
- ・各クラスだけでなく、全クラスの姿の共有が必要

見やすい、わかりやすい、見返したくなる指導計画がいい！

私たちの思いや大切にしたいことを整理してみると、「振り返ったこと」「記録したこと」を、次の「指導計画」に反映していくためには、「子ども理解」を踏まえる必要があることに気づきました。

各園の指導計画の書式

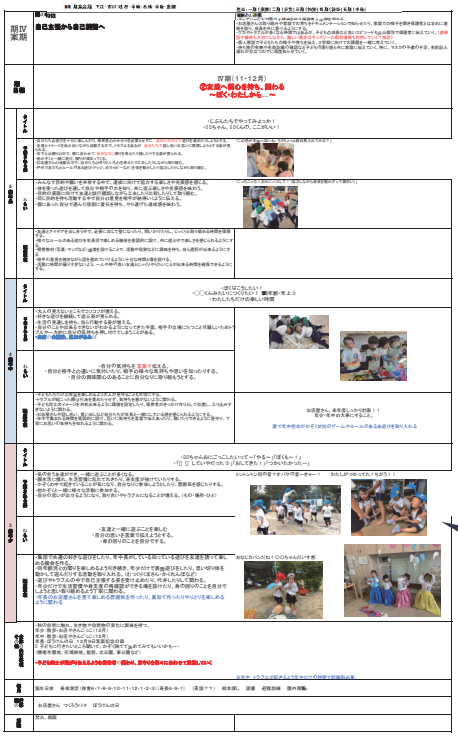
それぞれの月案、期案を持ち寄ってみると、活字だけであったり、保育者間であまり共有できていない、という園もあったのですが、子どもの姿の写真や吹き出しがのせてあり、見やすくてイメージがつきやすい物を使っている園がありました。

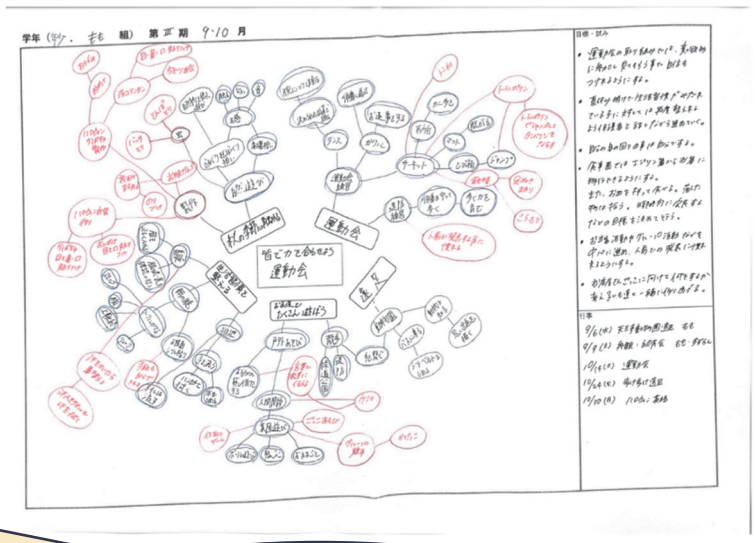
5歳児 5月の計画	クラスの育ちからの保育者の願い	今月は子どもはどんな育ちを続っている？ → 昨月末までのどのような姿からその願い各もった？ → どのような保育者の関わりをしていけばいいのだろう？ 新しい環境にも少しずつ慣れ、新しい友だちと関わる姿もごく一般的見られる様になってきた。ラキューや折り紙、お手紙を書くなどの作る遊びが人気でそれぞれ遊びを継続して遊んでいる様子が見られる。一人ひとりの様子をしっかり見ていき、遊びが継続して行える様に環境の設定をしたり、必要であればコーナーを広くするなど保育者環境にしていきたい。また、回有しているカタツムリの世話や飼育物の世話などしっかり当番活動を取り入れてどもたちが本当に楽しく過ごせるように努力したい。		
		実践のねらい	幼児の経験する内容	実践に応じた環境構成と保育者の指導や援助	評価・反省（月末に記入）
健康	前月給わりの幼児の姿 身の回りの事は比較的丁寧に行っている姿が見られる。新しい生活習慣（靴を立って履くなど）にも積極的に挑戦している。	・検診を通して自分の身体に興味を持ち健康に過ごす ・身の回りの服装整頓を自分で気づいて行う ・色々な活動や遊びの中で進んで体を動かし、心地よさや楽しさを味わう	・自分の身体に興味を持つ ・衣服の調整、水分補給、汗の始末を自ら行う ・睡眠準備の服、汗拭き物の確認を自ら行う ・平均台や鉄棒などに挑戦してみる ・リズム遊びを通して色々な体の使い方を知り身体に体を動かす	・絵本や図鑑などを用いて、プライベートゾーンの話などわかりやすく伝えていく ・毎日の排泄チェック、忘れ物チェックを保育者側から声を掛け行う事で習慣に出来る様にする ・学年での戸外遊びやクラスでの戸外遊びの機会を設け色々な用具に触れられるようにする ・腕を伸ばす事や足を曲げる事などこまかい所に意識出来るように声掛けを行い、リズム遊びを楽めていく	・忘れ物の確認や、服装までの片付けなどに忘れてしまう人が特定の子どもなので固々に声掛けを行っていく。 ・リズム遊びや学年での戸外遊びは楽しんで行っているが体の使い方が上手くいかない子がいるのでブリッジのやり方などクラスでも伝えていく。	
人間関係	前のクラスの友だちが少ない子もいたがすぐに新しい友だちが出来ていた。トラブルもなく落ち着いて過ごしている。	・積極的に異年齢児の世話をしたり、一緒に遊んだりする ・友だちと一緒に活動や遊びを存分に楽しむ	・年下の友だちに親しみをもち、優しく関わる ・同じ興味のある友だちと一緒に遊ぶ ・新しい友だちとの関わりを楽しむ	・年下の友だちへの関わりが一方的に事ちあるので相手がどんな表情をしているかなどまだ未達なりにも為される様に見守りながら時には声を掛ける ・子どもと遊んでいる様子をしっかりと見守り、友だち関係を把握していく	・クラス内でグループが明確が出来てきている。向し友だちはかりと関わるのではなく、年長行事の活動などを通して色々な友だちとの関わりを持てる様に促していきたい。	
環境	クラスで時 っているカタツムリに興味を持ち、名前を考えたり、飼育ケースの様子を察知する姿が見られる。	・飼育物や微感覚の世話を積極的に行う ・新しい活動に楽しんで参加する	・カタツムリの世話をしようとする ・きゅうりの生長に気づく ・当ての着脱丈力や保育の仕方など知る（印鑑） ・繰り返し参加しルールを知る（サッカー）	・カタツムリの名前を決めたり、当番を決めたりする事で愛着をもって飼育出来る様にする ・きゅうりの就成では写真に撮って記録したり、毎日観察する事で生長に気づける様にする	・当番以外の時にもきゅうりの観察をする様子が見られ、興味を持っていた。 ・カタツムリの大きさを家族から持ってくる子がいた。	
言葉	自己紹介やサークルタイムでは積極的に発言する姿が見られる。	・保育者や友だちと関わる中で自分の思いを相手がわかる様に言葉で伝える	・一つずつしい・給食を残したいなど自分の思いを言葉で伝えようとする ・保育者や友だちの話を最後まで聞く	・給食を残したい時に無って持って来る子が多いので言葉で出されるお姉に応じた ・サークルタイムでの発言は積極的だが、恥ずに思いい事を発言し、友だちの話を聞いていない事が多いので発言する人はコクなどし、サークルタイムの進めり方工夫していく	・サークルタイムは毎日行う事で少しずつ集中して話や聞いた事を、自分の言葉で伝えようとする様子が見られるようになり、わからない字も環境的に調べ、書こうとしている子が多い。	
表現	友だちに手紙を書く姿が沢山見られる。自分の名前はほとんどの子が書く事が出来る。	・手紙のやりとりや「よむ・かく・きく」の取り組みを通して楽しみをもつ ・時計に興味をもち、数字に親しむ	・「よむ・かく・きく」の取り組み方を知る	・「よむ・かく・きく」を始める前には絵本が低頻度事や正しい使い方、クラスでの約束事を丁寧に伝え、安全に取り組めるようにしていく ・文字を書く事に苦手意識がある子には点線をなぞるように促したり、保育者が一緒に手をもったりと協同に知ぬし、楽しく取り組めるようにする	・字を書く事を少しずつ楽しんでいる様子が見られるようになり、わからない字も環境的に調べ、書こうとしている子が多い。	

活字だけで
少し見にくい・・・

10月　くすのき組月案		年長　8名　年中9名　年少10名	
健康	・田んぼのお仕事を通して、作物の生長や収穫を喜ぶ。 ・遊具や用具の安全な使い方を身に付けながら、身体を動かして遊ぶことを楽しむ。		
人間関係	・一人ひとりの気持ちに寄り添い、子どもたちが安心して、自分の気持ちを表現できるようにしていく。 ・子どもたちが自ら考え、主体的に活動ができるような環境を整え、一人、ひとりの発想や表現を大切にしていく。 ・コロナ感染症、風邪などの予防として、手洗いやこまめな水分補給の大切さを伝えていくと共に、清潔を心掛ける。		
	3歳	4歳	5歳
ねらい	・友達と一緒にルールのある遊びを楽しむ ・身近な秋の自然に触れて親しむ	・友達と一緒に身体を動かして遊ぶ楽しさ、心地良さを味わう ・身近な秋の自然に触れて楽しむ	・友達と一緒に身体を動かすことを楽しみ、意欲や挑戦する気持ちをもつ ・生き物や自然に触れ、秋の訪れを感じる
教育（健康・人間関係・環境・言葉・表現）	・汚れた衣服の着替えや手洗いなど自分からしようとする。 ・気の合う友達と繰り返し好きな遊びをする。 ・友達と遊ぶ中で、思いや気持ちを自分なりに表現し、相手に伝えようとする。 ・散歩に出掛け、秋の自然に触れながら、歩くことを楽しむ。 ・園庭や散歩先で、落ち葉や木の実などを集めて遊ぶ。 ・栽培物の収穫をしたり、旬の食材を通して、季節を感じる。	・気温や運動量に応じ、休息や水分補給、衣服の調節を自ら行う。 ・全身を使って様々な運動遊びを楽しむ。 ・友達のしていることや言葉に関心をもち、自分の思いを伝えながら遊ぶことを楽しむ。 ・必要な仕事に気づいたり、役割を考えたりしながら協力して遊ぶ。 ・秋風の心地よさを感じる、落ち葉の色や形に興味をもつなどして季節のいろいろな変化に気付く	・活動や気候に合わせ、衣服の調節をする。 ・思い切り体を動かすことを喜び、ルールを守って遊ぶ。 ・遊びや活動の目的を友達と共有し、相手の思いや考えを受け入れながら進める。 ・自分なりの目当てをもち、友達の刺激を受けながら繰り返し挑戦する楽しさを味わう。 ・身近な自然物や自然事象について観察し、調べるなど関心をもつ。 ・収穫物の色や形、数量、重さなどに関心をもち、様々に表現することを楽しむ。
環境構成・保育者の援助と配慮	・気温の変化や活動に応じて、衣服の調節をしたり、水分補給をしたり、衣服をたたむ、自分の物を管理するなど、身の回りのことが自分で行えるよう、一人ひとりの育ちに応じて声をかけ、援助していく。 ・日々の生活の中で発見したことや調べたこと、思っていることをクラスで共有したり、考えたりする機会をもつ。 ・子どもたちの探求心の芽生えを次に繋げられるよう、お米、生き物、工作の資料や図鑑等を用意し、すぐに調べられるようにする。又、来作りでは稲刈りから収穫までのお仕事を子どもたちと共有し、今後の活動を自分たちで考える楽しさを味わえるようにする。 ・コーナーあそびでは、秋の自然本や絵本から、子どもたちが「作りたい、やってみたい」という思いが実現できるように木の実や落ち葉を準備し、自然物を活かしたもの作りが楽しめるようにする。 ・気持ちのぶつかり合いでは、友だちと楽しく遊ぶにはどうしたらいいのかを一緒に考えたり、思いを代弁したりしながら、子ども同士の関係を繋げていく。		
振り返り・課題	・その日の気温に応じて、自ら衣服を調節し、心地よく過ごせるよう工夫する姿が見られ、年少児も着脱や衣服の後片付けが一人で行えるようになってきている。援助が必要な時には、自ら保育者や周りの友だちに声を掛けられるよう見守っていきたい。 ・秋の季節や自然物に興味を持っており、観察したり、製作に繋げたりと意欲的に取り組む姿が見られた。ダンゴムシや、まつぼっくりの実験、どんぐりの味についてなど、不思議に思ったことや、やってみたいことを、友だちや保育者と共有し、クラス全体で親しむことができた。11月も、園外に出かけたり、お部屋で自然物を使用した製作を楽しんだりする中で、不思議や発見をクラスで共有できるような機会を設けていきたい。 ・気持ちのぶつかり合いでは、保育者が思いの伝え方の見本を見せたり、思いを代弁したりしながら引き続き子ども同士の関係を繋げていけるよう取り組んでいきたい。 ・稲刈り、原のお米の精米が終え、クラスで収穫を喜び、収穫したお米を今後どうしていきたいかについて話し合いを行った。自分で食べるだけでなく、お世話になっている人や、他のクラスの友だちに分けてあげたい。また、感想を聞きたいという意見があった。来仕事を通して、様々な人と一緒に共有する楽しさを知ることができていることや、思いやりの心が育っているのだと感じた。		
園長印	主幹印	担任印	

GOOD☆





子どもの姿が写真でのせてあり
他のクラスの保育者が見ても
わかりやすい！！

Before

～ある園の5月（年長）の月案～

★元の月案は全て文字での構成です

5歳児 5月の計画	クラスの育ちからの保育者の願い	今月は子ども達にどんな育ちを願っている？ → 前月末までのどのような姿からその願いをもった？ → どのような保育者の関わりをしていけばいいのだろう？ 新しい環境にも少しずつ慣れ、新しい友だちと関わる姿もたくさん見られる様になってきた。ラキューや折り紙、手紙を書くなどの作る遊びが人気でそれぞれ遊びを継続して遊んでいる様子が見られる。一人ひとりの様子をしっかり見守っていき、遊びが継続して行える様に時間の確保をしたり、必要であればコーナーを広くしたりするなど環境を再構成していきたい。また、飼育しているカタツムリの世話や栽培物の世話など少しずつ当番活動を取り入れて子どもが主体的に動ける様になってほしいと願う。		
前月終わりの幼児の姿	実践のねらい	幼児の経験する内容	実践に沿った環境構成と保育者の指導や援助
健康 身の回りの事は比較的丁寧に行っている姿が見られる。新しい生活習慣（靴を立って履くなど）にも積極的に挑戦している。	・検診を通して自分の身体に興味を持ち健康に過ごす ・身の回りの整理整頓を自分で気づいて行う ・色々な活動や遊びの中で進んで体を動かし、心地よさや楽しさを味わう	・自分の身体に興味を持つ ・衣服の調整、水分補給、汗の始末を自ら行う ・降園準備の際、忘れ物の確認を自ら行う ・平均台や鉄棒などに挑戦してみる ・リズム遊びを通して色々な体の使い方を知り存分に体を動かす	・絵本や図鑑などを用いて、プライベートゾーンの話などわかりやすく伝えていく ・毎日の服装チェック、忘れ物チェックを保育者側から声を掛け行う事で習慣に出来る様にする ・学年での戸外遊びやクラスでの戸外遊びの機会を設け色々な用具に触れられるようにする ・腕を伸ばす事や足を曲げる事などこまかい所に意識出来るように声掛けを行い、リズム遊びを進めていく
人間関係 前のクラスの友だちが少ない子もいたがすぐに新しい友だちが出来ていた。トラブルもなく落ち着いて過ごしている。	・積極的に異年齢児の世話をしたり、一緒に遊んだりする ・友だちと一緒に活動や遊びを存分に楽しむ	・年下の友だちに親しみをもち、優しく関わる ・同じ興味のある友だちと一緒に遊ぶ ・新しい友だちとの関わりを楽しむ	・年下の友だちへの関わり方が一方的に事もあるので相手がどんな表情をしているかなど子ども達なりにくみ取れる様に見守りながら時には声を掛ける ・子ども達の遊んでいる様子をしっかりと見守り、友だち関係を把握していく
環境 クラスで飼っているカタツムリに興味を持ち、名前を考えたり、飼育ケースの環境を整えたりする姿が見られる。	・飼育物や栽培物の世話を積極的に行う	・カタツムリの世話をしようとする ・きゅうりの生長に気づく	・カタツムリの名前を決めたり、当番を決めたりする事で愛着をもって飼育出来る様にする ・きゅうりの栽培では写真に撮って記録したり、毎日観察したりする事で生長に気づける様にする
言葉 自己紹介やサークルタイムでは積極的に発言する姿が見られる。	・保育者や友だちと関わる中で自分の思いを相手がわかる様に言葉で伝える	・～がしたい・給食を残したいなど自分の思いを言葉で伝えようとする ・保育者や友だちの話を最後まで聞く	・給食を残したい時に黙って持って来る子が多いので言葉で伝えられる様に促していく ・サークルタイムでの発言は積極的だが、個々に言いたい事を発言し、友だちの話を聞いていない事が多いので発言する人は立つなどし、サークルタイムの進め方を工夫していく
表現 友だちに手紙を書く姿が沢山見られる。自分の名前はほとんどの子が書く事が出来る。	・手紙のやりとりや「よむ・かく・きく」の取り組みを通して文字に親しみをもつ ・時計に興味をもち、数字に親しむ	・「よむ・かく・きく」の取り組み方を知る ・時計を見る習慣をつける	・「よむ・かく・きく」を始める前には鉛筆が危険な事や正しい使い方、クラスでの約束事を丁寧に伝え、安全に取り組めるようにしていく ・文字を書く事に苦手意識がある子には点線をなぞるように促したり、保育者が一緒に手をもったりと個別に対応し、楽しく取り組めるようにする

5領域の
環境に注目！

活字のみの月案に2つの写真と吹き出し入れてみよう！！！！

ここに木置いて～

クラスで育てているきゅうりに水やりをしています！

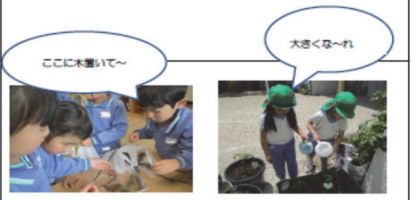
大きくな～れ～

遠足に行って拾ってきた落ち葉や枝を使ってカタツムリの家を作って世話しています！

この２つの写真を取り入れてみると・・・➡

After

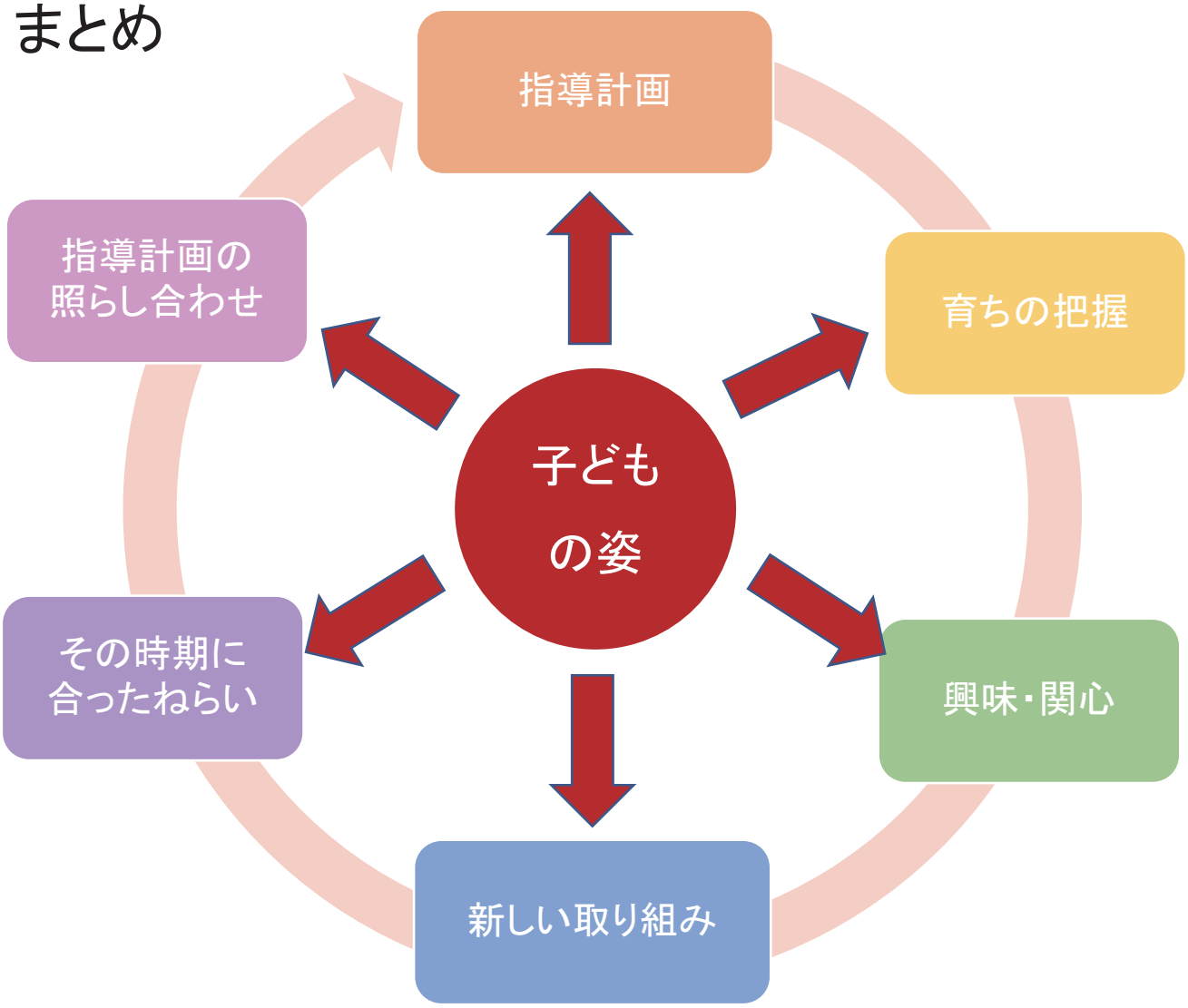
★写真と吹き出しを入れた月案

5歳児 5月の計画	クラスの育ちからの保育者の願い　今月は子ども達にどんな育ちを願っている？ → 前月末までのどのような姿からその願いをもった？ → どのような保育者の関わりをしていけばいいのだろう？ 新しい環境にも少しずつ慣れ、新しい友だちと関わる姿もたくさん見られる様になってきた。ラキューや折り紙、お手紙を書くなどの作る遊びが人気でそれぞれ遊びを継続して遊んでいる様子が見られる。一人ひとりの様子をしっかり見守っていき、遊びが継続して行える様に時間の確保をしたり、必要であればコーナーを広くするなど環境を再構成していきたい。また、飼育しているカタツムリの世話や栽培物の世話など少しずつ当番活動を取り入れて子どもが主体的に動ける様になってほしいと願う。				
	前月終わりの幼児の姿	実践のねらい	幼児の経験する内容	実践に沿った環境構成と保育者の指導や援助	
健康	身の回りの事は比較的丁寧に行っている姿が見られる。新しい生活習慣（靴を立って履くなど）にも積極的に挑戦している。	・検診を通して自分の身体に興味を持ち健康に過ごす ・身の回りの整理整頓を自分で気づいて行う ・色々な活動や遊びの中で進んで体を動かし、心地よさや楽しさを味わう	・自分の身体に興味を持つ ・衣服の調整、水分補給、汗の始末を自ら行う ・時間準備の際、忘れ物の確認を自ら行う ・平均台や鉄棒などに挑戦してみる ・リズム遊びを通して色々な体の使い方を知り存分に体を動かす	・絵本や図鑑などを用いて、プライベートゾーンの話などわかりやすく伝えていく ・毎日の服装チェック、忘れ物チェックを保育者側から声を掛け行う事で習慣に出来る様にする ・学年での戸外遊びやクラスでの戸外遊びの機会を設け色々な用具に触れられるようにする ・腕を伸ばす事や足を曲げる事などこまかい所に意識出来るように声掛けを行い、リズム遊びを進めていく	
人間関係	前のクラスの友だちが少ない子もいたがすぐに新しい友だちが出来ていた。トラブルもなく落ち着いて過ごしている。	・積極的に異年齢児の世話をしたり、一緒に遊んだりする ・友だちと一緒に活動や遊びを存分に楽しむ	・年下の友だちに親しみをもち、優しく関わる ・同じ興味のある友だちと一緒に遊ぶ ・新しい友だちとの関わりを楽しむ	・年下の友だちへの関わり方が一方的に事もあるので相手がどんな表情をしているかなど子ども達なりにくみ取れる様に見守りながら時には声を掛ける ・子ども達の遊んでいる様子をしっかりと見守り、友だち関係を把握していく	
環境	クラスで飼っているカタツムリに興味を持ち、名前を考えたり、飼育ケースの環境を整えたりする姿が見られる。	・飼育物や栽培物の世話を積極的に行う	・カタツムリの世話をしようとする ・きゅうりの生長に気づく	・カタツムリの名前を決めたり、当番を決めたりする事で愛着をもって飼育出来る様にする ・きゅうりの栽培では写真に撮って記録したり、毎日観察する事で生長に気づける様にする	
言葉	自己紹介やサークルタイムでは積極的に発言する姿が見られる。	・保育者や友だちと関わる中で自分の思いを相手がわかる様に言葉で伝える	・～がしたい・給食を残したいなど自分の思いを言葉で伝えようとする ・保育者や友だちの話を最後まで聞く	・給食を残したい時に黙って持って来る子が多いので言葉で伝えられる様に促していく ・サークルタイムでの発言は積極的だが、個々に言いたい事を発言し、友だちの話を聞いていない事が多いので発言する人は立つなどし、サークルタイムの進め方を工夫していく	
表現	友だちに手紙を書く姿が沢山見られる。自分の名前はほとんどの子が書く事が出来る。	・手紙のやりとりや「よむ・かく・きく」の取り組みを通して文字に親しみをもつ ・時計に興味をもち、数字に親しむ	・「よむ・かく・きく」の取り組み方を知る	・「よむ・かく・きく」を始める前には鉛筆が危険な事や正しい使い方、クラスでの約束事を丁寧に伝え、安全に取り組めるようにしていく ・文字を書く事に苦手意識がある子には点線をなぞるように促したり、保育者が一緒に手をもったりと個別に対応し、楽しく取り組めるようにする	

写真や吹き出しを取り入れてみることで‥

- 写真や吹き出しを取り込むことで実際の子どもの姿が思い浮かべやすい！
- 初めて担任をもつ保育者もイメージしやすい！
- 活字ばかりではないことで見返すきっかけになる！

まとめ



指導計画→今の子どもの姿を真ん中に考えることが大切

○普段の子どもの何気ない遊びに保育者が参加、時には子どもの遊びを見守る
→どんなところが育ってきているのかを考え把握(子ども理解)

○子どもの興味関心→新しい活動を取り入れる→子どもの姿に合わせて活動を変化
→その先の見通しをもつことが大切

○その年齢のその時期にあったねらいや保育者の願いと子どもの姿の両面から
指導計画に繋げる

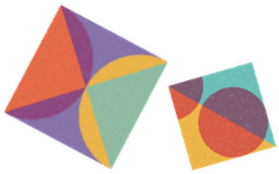
○新任の保育者など誰が見ても分かりやすく、活用したくなるような指導計画に！

第４章

子ども理解に基づき

次の保育に活かせる週日案を作っていくには

第 30 次プロジェクトを通してカリキュラム・マネジメントをしていくにあたり、子ども理解の視点から考えることの大切さを学んできました。
子ども理解をした上で、カリキュラム・マネジメントをするために、まずどこに焦点を当てていけばいいのか。
私たちのグループでは、各園のカリキュラム・マネジメントについての課題や悩みを基に、次の保育に活かせるカリキュラムを作っていけるよう、週日案に焦点を当てて考えました。



１、子ども理解について

子ども理解について、保育中、私たちはどのような視点を持っているかを整理します。

○子どもの興味関心について

子どもの表情を見て、興味を示している遊びや物事に気づきます。
それがその後どのように展開していくか、何を準備すればいいのかを考えるきっかけになります。

○友達との関わりについて

友達と遊ぶ中で気持ちを言葉にして伝え合い、豊かな関わりをしているかを見ます。
物の貸し借りや、順番を守る、ゲーム等のルールを理解しているかどうかも視点の１つです。

○集中力について

自分で黙々と取り組んでいるか、遊びが流動的ではなく１つの遊びに試行錯誤しているかといった視点も含まれます。

私たちは日々保育をする上で、自然とこのような視点を持って保育していることがわかりました。

2、カリキュラム（週日案）を作っていく上での各園の悩み

次に、日案やドキュメンテーション等の記録を通して子ども理解が行われているか、
また、それらが反映された計画を立てられているか、今の現状を持ち寄り話し合いました。
各園それぞれの良いところ、課題や悩みも多く出ました。各園から出た悩みは以下の通りです。

○各園の悩み

・作成に時間がかかる

・書いただけになっている

・クラスや他学年、園全体との共有が難しい

様々な悩みが出ましたが、カリキュラムを次の保育に活かしていくために、

「書いただけになっている（見返しができていない）」

という項目に焦点を当て考えていきます。

○書いただけになっている要因

書いただけになっている現状には以下のような要因があるのではないかと考えました。

・振り返りが感想・日記になりがち

・次に活かしづらい

これらの現状を少しの工夫で変えられるのではないか？

・見返しづらい

○できそうな工夫

① 写真を入れる

視覚による情報伝達方法を取り入れることで自らの経験を取り込みやすくすると言われています。

② 振り返り内容の見直し

振り返りの項目を増やしたり、項目名を変えたりすることで、自然と内容を意識して書けるようになるのではないか。たとえば、振り返りの部分に気づいたこと・次に活かせそうなこと等の工夫をすることで、”わかりやすい”、”見やすい”、”見返しやすい”週案になり、次の保育に活かせる週日案の振り返りができるのではないかと考えました。

3、実際に使用している週日案の書式を変えてみよう！！

週日案は、園によって様々な書式があると思います。
ここでは、Ａ園とＢ園の週日案を参考に見ていきます。

○Ａ園の週日案の書式

・一日ごとにねらいを設定

・一日ごとに振り返りを記入

実際の書式は以下の通りです。

	9月　18日（月）	9月　19日（火）	9月　20日（水）AM
内容	○リトミック （音をよく聞いて体を動かそう）	○季節の製作(ぶどう)	○プール(9:30～) ・こんなことできるかな
ねらい	・音を聞いて考える力を培う ・繰り返しの遊びに心地よさを感じる	・製作を通して食べものに興味を持つ ・のり(ボンド)の使い方や性質を知る	・水の中での体の動かし方を知る ・やってみようとする気持ちを持つ
物的環境	・椅子におしるしを貼る ・３つの○と絵表示(サメ・亀・ねずみ)	・トイレットペーパーの芯・花紙 ・水溶きボンド・製作雑巾	・“こんなこと”を絵で示した表示
人的環境	子ども達自身が何の音か考え、行動できるように声掛けのタイミングを図る	・写真を見てぶどうの形や色などについて話し、それぞれがイメージしたものを自由な発想で取り組めるようにする	・できなくてもその子のペースでできたことや挑戦したことを認める
ふりかえり	音のイメージがしやすいようにイラストをつけたことで、イラストと音が一致できている様子だった。リトミックを通して、身体をリズミカルに動かすだけでなく、音への感覚も深めていきたい。	簡単な作業の製作だったので、みんなが楽しんで取り組んでいた。説明がなくても、自由に表現できるようなものが、今の子ども達にあっていると感じた。	・寒いことが理由で、プールに入りたくないという子が数名いる。入りたくなるような活動を考えていきたい。次回、みんなの好きな色水をしてみようと思う。
欠			

	9月　21日（木）	9月　22日（金）	9月　23日（土）
内容	○サーキット(9:30～10:30)入替 ○玉ねぎかわむき(コーナー)	○最後のプール(10:00～) ～色水で遊んでみよう！～ ○野菜の苗植え（PM）	
ねらい	・道具の使い方や遊び方を知る ・様々な身体の動かし方を経験する ・食に興味を持つ	・プールでの遊びを友達と楽しむ ・お約束事を守りながら色水遊びを楽しむ	
物的環境	・サーキット準備(あまね) ・玉ねぎ・ボウル	・ビールケース・たらい・絵の具 ・透明容器たくさん	
人的環境	使い方知らせる際に、様々な使い方があることを子ども達に知らせる	・最後のプール遊びを楽しい思い出にできるよう、水遊びが苦手な子も誘い掛ける	
ふりかえり	サーキットでは、自分の出来る範囲で身体を動かす子どもの姿が見られる。その様子をよく観察し、どのタイミングでどのような声掛けをするのかが重要だと感じた。	色水遊びでは、約束事をみんなで守ろうと意識する姿が見られた。これからも、子ども達のしてみたいという気持ちをキャッチし、実現できるような保育をしていきたい。	
欠			

○A園の週日案の振り返り内容

【　　改善前　　】

	9月　21日　(木)	9月　22日　(金)
内容	○サーキット(9:30～10:30)入替 ○玉ねぎかわむき(コーナー)	○最後のプール(10:00～) ～色水で遊んでみよう！～ ○野菜の苗植え（PM）
ねらい	・道具の使い方や遊び方を知る ・様々な身体の動かし方を経験する ・食に興味を持つ	・プールでの遊びを友達と楽しむ ・お約束事を守りながら色水遊びを楽しむ
物的環境	・サーキット準備(あまね) ・玉ねぎ・ボウル	・ビールケース・たらい・絵の具 ・透明容器たくさん
人的環境	使い方知らせる際に、様々な使い方があることを子ども達に知らせる	・最後のプール遊びを楽しい思い出にできるよう、水遊びが苦手な子も誘い掛ける
ふりかえり	サーキットでは、自分の出来る範囲で身体を動かす子どもの姿が見られる。その様子をよく観察し、どのタイミングでどのような声掛けをするのかが重要だと感じた。	色水遊びでは、約束事をみんなで守ろうと意識する姿が見られた。これからも、子ども達のしてみたいという気持ちをキャッチし、実現できるような保育をしていきたい。
欠		

振り返りが感想・日記になりがち

次に活かしづらい

見返しづらい

A園の週日案の振り返りを見てみると楽しそうだった、面白そうだった等、振り返りが感想・日記になりがちだったり、次にどう活かせるのかというところまで振り返りができていなかったり、書いたきりで見返すことがないようなものになっている現状に気づきました。

【　　改善後　　】

	9月　21日　（木）	9月　22日　（金）
内容	○サーキット(9:30～10:30)入替 ○玉ねぎかわむき(コーナー)	○最後のプール(10:00～) ～色水で遊んでみよう！～ ○野菜の苗植え（PM）
ねらい	・道具の使い方や遊び方を知る ・様々な身体の動かし方を経験する ・食に興味を持つ	・プールでの遊びを友達と楽しむ ・お約束事を守りながら色水遊びを楽しむ
物的環境	・サーキット準備(あまね) ・玉ねぎ・ボウル	・ビールケース・たらい・絵の具 ・透明容器たくさん
人的環境	使い方知らせる際に、様々な使い方があることを子ども達に知らせる	・最後のプール遊びを楽しい思い出にできるよう、水遊びが苦手な子も誘い掛ける
ふりかえり	サーキットでは、自分の出来る範囲で身体を動かす子どもの姿が見られる。その様子をよく観察し、どのタイミングでどのような声掛けをするのかが重要だと感じた。	色水遊びでは、約束事をみんなで守ろうと意識する姿が見られた。これからも、子ども達のしてみたいという気持ちをキャッチし、実現できるような保育をしていきたい。
欠		

保育を写真に残す意識

見返しやすい

書いた場面をイメージしやすい

○B園の週日案の書式

・一日ごとにねらいを設定

・一日ごとに振り返りを記入

実際の書式は以下の通りです。

R3年　10月 18日～22日	17日(月)	18日(火)	19日(水)	20日(木)	21日(金)
○月のねらい	○バラバルーン ○バラビデオ見る	○コーナー かついではしって (5クラス)	○午前保育 ○図書	○開会式	○午前保育 ○かついで秘密特訓
○週のねらい ・友達を誘い合い、好きな遊びを見つけて楽しむ ・見てもらう事を意識し、運動会に向けて期待を高める ・クラスで話し合いながら、自分たちで出来た達成感を感じる。	○コーナー ・おはなちゃん腰巻づくり ○順次登園 身辺整理 ○10：10～片付け 歌 ○出欠確認 ○バラバルーン ○バラバルーンビデオ ○給食 ○降園	○コーナー ・おはなちゃん腰巻づくり ・パイナップルあたま ○順次登園 身辺整理 ○9:30～片付け 歌 ○出欠確認 ○かついで走って (5クラス) ○好きな遊び ○給食 ○お帰り ホールでバラ →がんばりカード ○降園	○コーナー ・おはなちゃん腰巻づくり ・パイナップルあたま ○順次登園 身辺整理 ○10:00～片付け 歌 ○出欠確認 ○図書 ○お部屋でバラ →頑張りシール ○講演	○コーナー ・おはなちゃん腰巻づくり ・パイナップルあたま ○順次登園 身辺整理 ○好きな遊び ○10:15～片付け ○朝の集まり 歌ヤンチャリカ ○出欠確認 ○運動会開会式 ○給食 ○お帰り バラ →頑張りカードに シール ○降園	○コーナー おはなちゃん腰巻づくり ・パイナップルあたま ☆服を着て園内練り歩き ○順次登園 身辺整理 ○9:45～片付け 歌 ○出欠確認 ○かついで走って 秘密特訓 ○お帰り シールプレゼント 頑張りカードにシール ○降園

現在の姿（before）	目標（after）	保育者の配慮	結果（子どもの姿）
・自分たちのバラバルーンのビデオを見ることで、もっとよくしようという気持ちが高まっている 	・コーナー遊びやクラスの取り組み等様々な活動の中で、運動会に向けて期待が高まるような工夫をする。	・衣装づくり、個別の頑張りカード、秘密特訓など個人やクラスでの特別感を感じることで、運動会に向けての期待に繋げる。	・運動会に向けたクラスの取り組みだけでなく、コーナー遊びの中に運動会で行う競技を遊びとして取り入れ楽しむ姿が見られた。 ・楽しんで取り組む中で、クラスみんなで取り組むたいせつさを十分に感じ、それを楽しんでいた。

OB 園の週日案の振り返り内容

B 園の週日案の振り返りを見ながら、振り返りの内容について考えていきます。

【　　改善前　　】

現在の姿（before）	目標（after）	保育者の配慮	結果（子どもの姿）
・自分たちのパラバルーンのビデオを見ることで、もっとよくしようという気持ちが高まっている 	・コーナー遊びやクラスの取り組み等様々な活動の中で、運動会に向けて期待が高まるような工夫をする。	・衣装づくり、個別の頑張りカード、秘密特訓など個人やクラスでの特別感を感じることで、運動会に向けての期待に繋げる。	・運動会に向けたクラスの取り組みだけでなく、コーナー遊びの中に運動会で行う競技を遊びとして取り入れ楽しむ姿が見られた。 ・楽しんで取り組む中で、クラスみんなで取り組むたいせつさを十分に感じ、それを楽しんでいた。

上の図が振り返り部分の抜粋です。結果（子どもの姿）という欄が評価と振り返りをしている欄になります。

大まかな振り返りで具体的な振り返りができていない

ありきたりな内容で視野の狭い振り返りになりがち

B園の週日案の振り返りを見てみると、大まかな振り返りで具体的な振り返りができていない・ありきたりな内容で視野の狭い振り返りになりがちという点から、次の保育に活かしづらいという現状に気づきました。

○次の保育に繋がる振り返りをするには

このような現状からどのような振り返りをすれば、次の保育に繋がる週日案になるか、保育を振り返る際のポイントについて考えました。

① 保育を振り返る際に子どもたちの遊びを思い浮かべながらどんなことが楽しい、面白いと思っていたのかということを“トキメキ”という言葉に置き換えて

どんな”トキメキ”があったのか

② そこから、遊びながら

どんなヒラメキやイメージが生まれてくるだろうか

その**ヒラメキやイメージが持続するには**、または

新たなヒラメキ・イメージが生まれてくるには？

どのような手立て(具体的な環境構成、援助、配慮)が必要か

このような視点と流れで保育を振り返り、評価を書いていくことで次の保育に活きる週日案になるのではないかと考えました。

○振り返りの項目を変更

【　改善前　】

現在の姿（before）	目標（after）	保育者の配慮	結果（子どもの姿）
・自分たちのバラバルーンのビデオを見ることで、もっとよくしようという気持ちが高まっている 	・コーナー遊びやクラスの取り組み等様々な活動の中で、運動会に向けて期待が高まるような工夫をする。	・衣装づくり、個別の頑張りカード、秘密特訓など個人やクラスでの特別感を感じることで、運動会に向けての期待に繋げる。	・運動会に向けたクラスの取り組みだけでなく、コーナー遊びの中に運動会で行う競技を遊びとして取り入れ楽しむ姿が見られた。 ・楽しんで取り組む中で、クラスみんなで取り組むたいせつさを十分に感じ、それを楽しんでいた。

【　改善後　】

目標（before）	どんなトキメキがあったか	どんなヒラメキ・イメージが生まれてくるか	手立て（援助・配慮、環境構成）
・コーナー遊びやクラスの取り組み等様々な活動の中で、運動会に向けて期待が高まるような工夫をする。	・自分たちでCDをかけて友達と踊りを踊る楽しさを感じていた。 ・友達と息を合わせて運ぶ楽しさ、力を合わせる面白さを感じていた 	・踊りの曲にちなんだ服を作りたい！と感じるようになる ・かわいい服にしたい！と張り切って作る。 ・他のクラスと対戦することで勝ち負けに興味を持つ	・衣装が作れるような環境構成 ・様々な素材を用意し、自分たちで作れるようにする ・他のクラスと対戦する機会を設ける

４歳児の２学期、運動会前の時期の週案です。当初の振り返りだと、「運動会で行う競技を遊びに取り入れ楽しむ姿が見られた」というざっくりとした振り返りでした。
そこで新たな振り返りの項目に沿って考えてみることで、「自分たちで CD をかけて友達と踊りを踊る楽しさを感じている」というトキメキがあり、そこから踊りに使う服を自分で作りたいというヒラメキが生まれてくるのではないでしょうか。そして、服を作れるような環境や素材を準備しておこうというように具体的に振り返りができるようになり、次の保育に活きる週日案へと近づいたのではないかと思います。

これまでの学びから考えた

週日案の書式①

2024 年度　週日案　　〇〇組　　担任　〇〇

	月　　日　（月）	月　　日　（火）	月　　日　（水）
内容			
ねらい			
物的環境			
人的環境			
	月　　日　（木）	月　　日　（金）	月　　日　（土）
内容			
ねらい			
物的環境			
人的環境			

ねらい(目標)	どんなトキメキがあったか	どんなヒラメキ・イメージが生まれてくるか	手立て(援助・配慮・環境構成)

これまでの学びから考えた

週日案の書式②

2024 年度
〇〇組

担任　〇
〇
園長　〇〇

月 第 週	（今週の予定）	環境構成	

日（月）		日（火）		日（水）		日（木）		日（金）	

ねらい(目標)	どんなトキメキがあったか	どんなヒラメキ・イメージが生まれてくるか	手立て(援助・配慮・環境構成)

4、おわりに

〇個人の保育の振り返り
〇個人の子ども理解

週日案に記入する保育の振り返りについては、自分自身の保育の振り返りになり、自分が子どもたちの姿をどう見ているか、子ども理解の視点の気づきもあり、大切な振り返りだということがわかりました。
ではそれを、個人的な振り返りに留めておいていいのでしょうか？
『今、子どもたちのここが育っている！』ということを共有する必要があります。

〇他職員との振り返り・共有

皆さんの園では、他の職員との保育の振り返りをどのように行っていますか？
色々なキャリアを重ねた保育者同士で子どもの姿を理解して、その育ちや課題点を共有することによって、新しい視点が見つかるかもしれません。
園の方針を理解しながら、他の保育者と同じ目標やねらいに向かって保育をしていくことは大切です。
目の前の子どもの姿を色々な視点で捉えながら、振り返りをして次の日に繋がるような週日案が書けたらいいと思いますし、私たちの研究が少しでも活かされればと願っています。

第２部

「幼児理解から考えるカリキュラム・マネジメント」の考え方の整理とポイント

1）幼児理解から考えるカリキュラム・マネジメントについての基本的な考え方

2）「幼児理解」と「振り返り」のポイント

3）「振り返り」を踏まえた「次の手立て」のポイント

4）指導計画の「子どもの姿」や「振り返り（自己評価）」に何を書くか、どのように書くかのポイント

第２部　「幼児理解から考えるカリキュラム・マネジメント」の考え方の整理とポイント

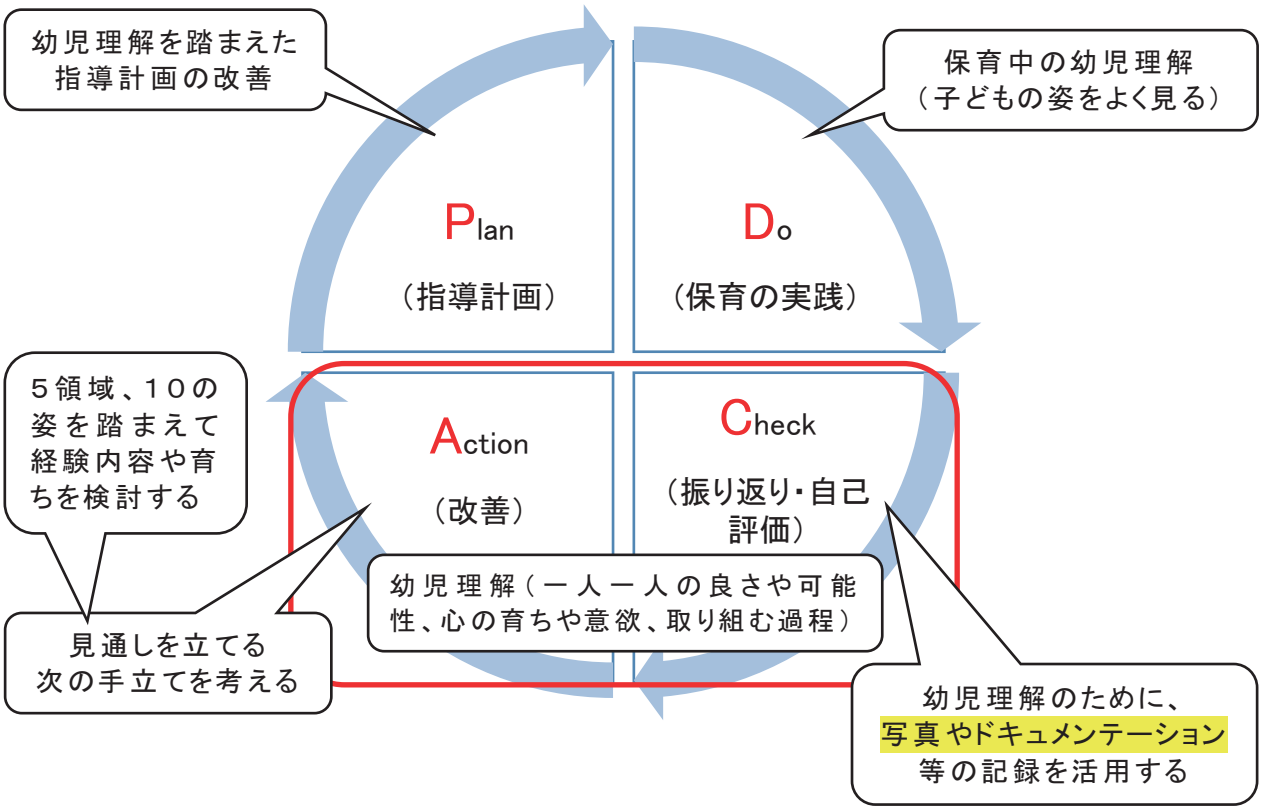
第２部では、第１部で示されたことを下記の４つの視点で総合的に整理します。
１．幼児理解から考えるカリキュラム・マネジメントについての基本的な考え方
２．「幼児理解」と「振り返り」のポイント
３．「振り返り」を踏まえた「次への手立て」のポイント
４．指導計画の「子どもの姿」や「振り返り（自己評価）」に何を書くか、どのように書くかのポイント

１．幼児理解から考えるカリキュラム・マネジメントについての基本的な考え方

【ポイント】　カリキュラム・マネジメントは、「評価と改善のサイクル」

幼児理解から考えるカリキュラム・マネジメントは、一人ひとりの教師・保育教諭が自分の保育を通して、幼児の遊びや活動の様子を捉えながら指導計画等のカリキュラムを検討していく営みです。そのために、PDCAサイクルは欠かせない考え方です。

とくに、**ＣＡの部分**、すなわち、**Ｃ（振り返り・自己評価）**を、**Ａ（次への見通し・手立て）**に活かして、指導計画に反映（改善）していくことが大切です。



２．「幼児理解」と「振り返り」のポイント

【ポイント１】　子どもの姿を知る

○　一人ひとりを“あたたかなまなざし”で丁寧にみる

○　その子の性格や特性等を含めて、丸ごと理解する

○　その子の色々な場面を多様的に捉えていく

【ポイント２】　子どもを見る（読み取る）

―　行動だけでなく、「内面」「表情」「視線」を意識する

子どもの姿は「表面的な読み取り」で終わるのではなく、

☑　子どもの**心の動き**や**これまでの子どもの育ち**を踏まえた読み取り

☑　子どもの**これまでの興味の傾向**や**子ども同士の関係性**を踏まえた読み取り

が大切！

【ポイント３】　子どもの「心の動き」を捉える３つのステップ

【STEP1】　子どもの「トキメキ」（心の動いた瞬間）を見つけよう！

✔　集中している様子、夢中になっている様子は意識してみてみよう

✔　友達との関わりながら、遊んでいる様子を意識してみてみよう

具体的に「何をしているのか」
「何を見ているのか」
等をしっかりと捉える

【STEP2】　一人ひとりの「内面」「表情」「視線」を見て、読み取ってみよう！

子どもの行動（手の動き）や
目線に注目してみよう

【STEP3】　子どもたちの姿から考えてみよう！

✔　「何を楽しんでいるのか」を考えてみよう。

✔　「どんなところに興味・関心を持っているのか」を考えてみよう。

✔　「子どもたちの思いや考え」を汲み取ってみよう。

【ポイント４】　子どもの姿の「振り返り」は、

子どもの内面（興味・関心、トキメキ）と、遊びや活動の過程を振り返る

■ 子どもの内面（興味・関心、トキメキ）を捉える

○「何に心が動いていたのか？」「何を感じていたのか？」

○「遊ぶ中でどんなことが楽しい、面白いと思っていたのだろうか？」

○「どんなことに、トキメキながら遊んでいたのか？」

○「どうしていきたいと思っていたのか？」

○　具体的に「何をしているのか」「何を見ているのか」等をしっかりと捉える

○　子どもの行動や目線に注目する

○○○○にトキメキを感じているね。この遊びで・・・を楽しいと思っているのかな。

遊びながら、～～というヒラメキが生まれているね。もっと・・・したいと思っているみたい。

■ 遊びや活動の過程の理解を深める

○遊びながらどんな“ヒラメキ”や“イメージ”が生まれてきているだろうか？

○もっと、どうしていきたいと思っているのだろうか？

■ 保育の専門性の視点から考えよう

○　５領域の「ねらい」「内容」を使って、子どもの経験していることを意味づける

○　「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10 の姿）」を使って、子どもの「育ち」を意味づける

５領域の視点から経験を読み取る
（例）　自分の考えを試している
→　領域「環境」　等

子どもの育ちを読み取る
（例）　試したり、試行錯誤する力が育ってきている　→　10の姿では「思考力の芽生え」が育ってきている

次の「手立て」につながる

子どもの“育ち”がわかることで、どこを伸ばしていけばよいか明確になり、手立てを考えやすくなる。

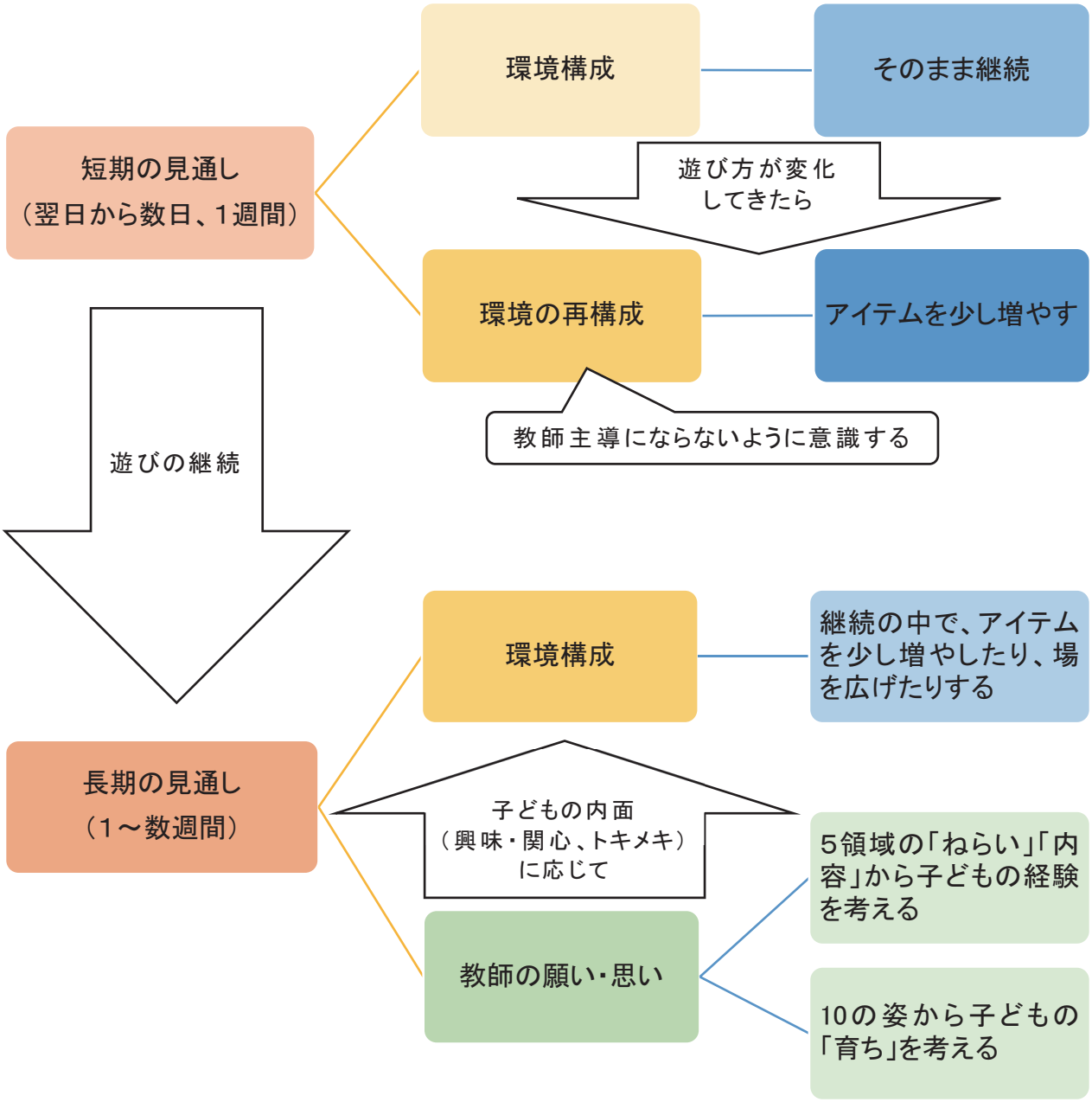
３．「振り返り」を踏まえた「次への手立て」のポイント

【ポイント１】　子どもの遊びの継続と発展を考える

○　トキメキが持続するには、どんな手立てが必要なのか？
○　新たなヒラメキやイメージが生まれるにはどんな環境が必要なのか？
→　いろいろな見通しを考えてみる
　　１つに絞らずに、視野を広げて考えを出してみる

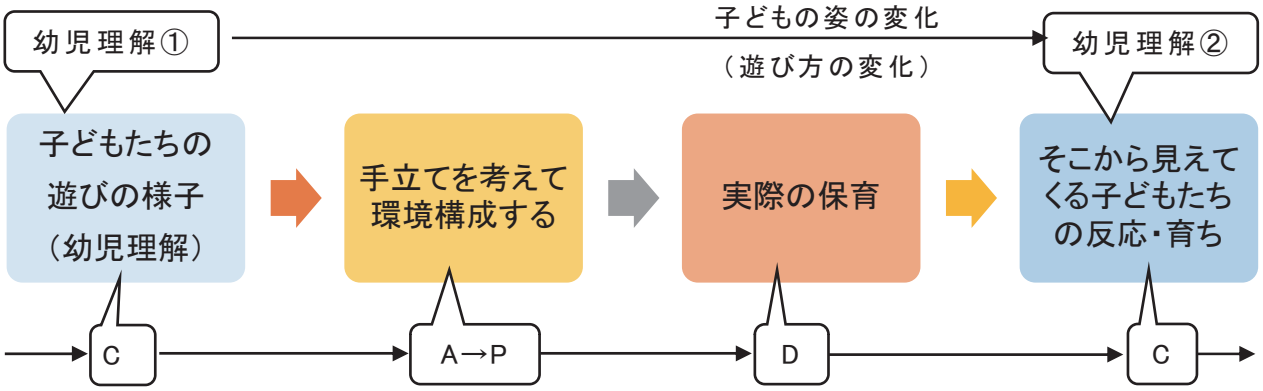
【ポイント２】　どのような手立て（具体的な環境構成、援助、配慮）が必要か

子どもの姿や遊びの継続と発展から、その遊びは「短期の見通し」が必要なのか、「長期の見通し」なのかを子どもたちの様子を見ながら「手立て」を考えていきます。



【ポイント３】　手立て（具体的な環境構成、援助、配慮）を実践したら振り返ろう

手立てを考えて環境構成して、次に実際に保育をしていきます。
そこから見えてくる子どもたちの反応はどうだったか、どんな育ちが見られるのか、今後どのような育ちが見られるのか等を踏まえ、さらに振り返っていきます。



４．指導計画の「子どもの姿」や「振り返り（自己評価）」に何を書くか、どのように書くかのポイント

（１）　共通しているポイント

○　ドキュメンテーションやポートフォリオで使う**写真を入れるとよい。**
○　振り返りを書くときに、
　子どものトキメキ（興味・関心、内面）を捉えて書く
　子どもの気づき、ヒラメキやイメージ、育ちを捉えて書く
　次への見通しや手立て（改善点）を書く

（２）　振り返りの書き方の工夫（その１）　―　第２章を参照

２章では、「振り返り」の枠内に書くことを、PDCAサイクルの考え方を踏まえて、「DO（子どもの姿）」→「CHECK（保育者の振り返り）」→「PLAN（だから…）」の流れで書くと、「子どもの姿を踏まえて、次への見通し」を意識して書くことができることが提案されています。

～Before～

振り返り

～After～

日（　）　【主な活動】
DO（子どもの姿） ★ときめき・ひらめき
CHECK（保育者の振り返り） ★その中での気づきや育ちと、 保育者の反省や課題点
PLAN（だから…） ★あそびの発展と計画や改善

（３）　振り返りの書き方の工夫（その２）　―　第３章を参照

３章では、子どもの実際の姿として、ドキュメンテーション等で使った「写真」「吹き出し」を入れることで、「実際の子どもの姿が思い浮かべやすい！」「初めて担任をもつ保育者もイメージしやすい！」こと等が提案されています。

5歳児 5月の計画	クラスの育ちからの保育者の願い	今月は子ども達にどんな育ちを願っている？ → 前月末までのどのような姿からその願いをもった？ → どのような保育者の関わりをしていけばいいのだろう？ 新しい環境にも少しずつ慣れ、新しい友だちと関わる姿もたくさん見られる様になってきた。ラキューや折り紙、お手紙を書くなどの作る遊びが人気でそれぞれ遊びを継続して遊んでいる様子が見られる。一人ひとりの様子をしっかり見守っていき、遊びが継続して行える様に時間の確保をしたり、必要であればコーナーを広くするなど環境を再構成していきたい。また、飼育しているカタツムリの世話や栽培物の世話など少しずつ当番活動を取り入れて子どもが主体的に動ける様になってほしいと願う。			
	前月終わりの幼児の姿	実践のねらい	幼児の経験する内容	実践に沿った環境構成と保育者の指導や援助
健康	身の回りの事は比較的丁寧に行っている姿が見られる。新しい生活習慣（靴を立って履くなど）にも積極的に挑戦している。	・検診を通して自分の身体に興味を持ち健康に過ごす ・身の回りの整理整頓を自分で気づいて行う ・色々な活動や遊びの中で進んで体を動かし、心地よさや楽しさを味わう	・自分の身体に興味を持つ ・衣服の調整、水分補給、汗の始末を自ら行う ・調理準備の際、忘れ物の確認を自ら行う ・平均台や鉄棒などに挑戦してみる ・リズム遊びを通して色々な体の使い方を知り存分に体を動かす	・絵本や図鑑などを用いて、プライベートゾーンの話などわかりやすく伝えていく ・毎日の服装チェック、忘れ物チェックを保育者側から声を掛け行う事で習慣に出来る様にする ・学年での戸外遊びやクラスでの戸外遊びの機会を設け色々な用具に触れられるようにする ・腕を伸ばす事や足を曲げる事などこまかい所に意識出来るように声掛けを行い、リズム遊びを進めていく
人間関係	前のクラスの友だちが少ない子もいたがすぐに新しい友だちが出来ていた。トラブルもなく落ち着いて過ごしている。	・積極的に異年齢児の世話をしたり、一緒に遊んだりする ・友だちと一緒に活動や遊びを存分に楽しむ	・年下の友だちに親しみをもち、優しく関わる ・同じ興味のある友だちと一緒に遊ぶ ・新しい友だちとの関わりを楽しむ	・年下の友だちへの関わり方が一方的に事もあるので相手がどんな表情をしているかなど子ども達なりにくみ取れる様に見守りながら時には声を掛ける ・子ども達の遊んでいる様子をしっかりと見守り、友だち関係を把握していく
環境	クラスで飼っているカタツムリに興味を持ち、名前を考えたり、飼育ケースの環境を整えたりする姿が見られる。	・飼育物や栽培物の世話を積極的に行う	・カタツムリの世話をしようとする ・きゅうりの生長に気づく	・カタツムリの名前を決めたり、当番を決めたりする事で愛着をもって飼育出来る様にする ・きゅうりの栽培では写真に撮って記録したり、毎日観察する事で生長に気づける様にする
言葉	自己紹介やサークルタイムでは積極的に発言する姿が見られる。	・保育者や友だちと関わる中で自分の思いを相手がわかる様に言葉で伝える	・～がしたい・給食を残したいなど自分の思いを言葉で伝えようとする ・保育者や友だちの話を最後まで聞く	・給食を残したい時に黙って持って来る子が多いので言葉で伝えられる様に促していく ・サークルタイムでの発言は積極的だが、個々に言いたい事を発言し、友だちの話を聞いていない事が多いので発言する人は立つなどし、サークルタイムの進め方を工夫していく
表現	友だちに手紙を書く姿が沢山見られる。自分の名前はほとんどの子が書く事が出来る。	・手紙のやりとりや「よむ・かく・きく」の取り組みを通して文字に親しみをもつ ・時計に興味をもち、数字に親しむ	・「よむ・かく・きく」の取り組み方を知る	・「よむ・かく・きく」を始める前には鉛筆が危険な事や正しい使い方、クラスでの約束事を丁寧に伝え、安全に取り組めるようにしていく ・文字を書く事に苦手意識がある子には点線をなぞるように促したり、保育者が一緒に手をもったりと個別に対応し、楽しく取り組めるようにする

（４） 振り返りの書き方の工夫（その３） ― 第４章を参照

４章では、「ねらい（目標）」「どんなトキメキがあったか」「どんなヒラメキ・イメージが生まれてくるか」「手立て（援助・配慮・環境構成）」を区分けして書くことを提案しています。

【改善前】

現在の姿（before）	目標（after）	保育者の配慮	結果（子どもの姿）
・自分たちのパラバルーンのビデオを見ることで、もっとよくしようという気持ちが高まっている	・コーナー遊びやクラスの取り組み等様々な活動の中で、運動会に向けて期待が高まるような工夫をする。	・衣装づくり、個別の頑張りカード、秘密特訓など個人やクラスでの特別感を感じることで、運動会に向けての期待に繋げる。	・運動会に向けたクラスの取り組みだけでなく、コーナー遊びの中に運動会で行う競技を遊びとして取り入れ楽しむ姿が見られた。 ・楽しんで取り組む中で、クラスみんなで取り組むたいせつさを十分に感じ、それを楽しんでいた。

【改善後】

目標（before）	どんなトキメキがあったか	どんなヒラメキ・イメージが生まれてくるか	手立て（援助・配慮、環境構成）
・コーナー遊びやクラスの取り組み等様々な活動の中で、運動会に向けて期待が高まるような工夫をする。	・自分たちでCDをかけて友達と踊りを踊る楽しさを感じていた。 ・友達と息を合わせて運ぶ楽しさ、力を合わせる面白さを感じていた	・踊りの曲にちなんだ服を作りたい！と感じるようになる ・かわいい服にしたい！と張り切って作る。 ・他のクラスと対戦することで勝ち負けに興味を持つ	・衣装が作れるような環境構成 ・様々な素材を用意し、自分たちで作れるようにする ・他のクラスと対戦する機会を設ける

第３部

園で共通理解していくためのポイント

第１章　子ども理解を園内で共有するために
第２章　子ども理解をカリキュラムに活かすには？

第１章　子ども理解を園内で共有するために

園として同じ方向性を向いて保育をしていくために、そして、個々の保育者の子ども理解の視点や子どもの見方を揃えていくために、どんな取り組みをしていくとよいのでしょうか。
いま、それぞれの園で取り組んでいる共有方法（会議、ポートフォリオ、ドキュメンテーション等）の質を少しずつ高めることで、子ども理解の共有がバージョンアップしていきます。

１．　子ども理解の共有　≪保育中≫

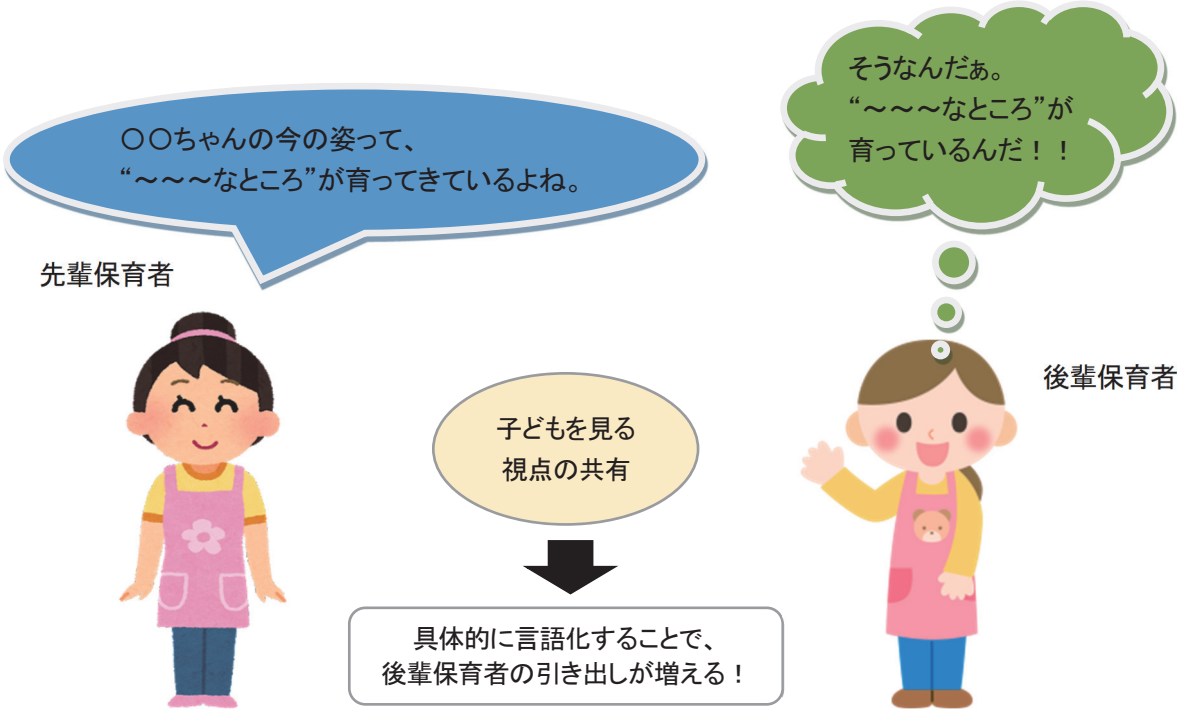
保育者の”何気ないつぶやき”が大切！

保育者の
子どもを見る視点

- 子どもの遊び方や言動・つぶやき、行動
- 子どもの姿の伝え合い、相談

○　**保育中に、保育者同士で、子どもの姿を肯定的につぶやくことはありますか？**
楽しそうに遊んでいる姿、自分で工夫や試行錯誤している姿、夢中になって一生懸命になっている姿、子ども同士のやりとりしている姿等、保育者が目にした子どもの姿を伝え合うことで、子どもの素敵な姿を他の保育者とも共有することにつながります。

→　とくに「**子どもの素敵な姿**」を目にしたときに、**先輩保育者の何気ない“つぶやき”を後輩保育者にも伝わるように意識する**と、保育中でも子どもを見る視点等の共有ができます。



○　保育中に、保育者同士で、子どもの姿を伝え合ったり、相談することはありますか？
保育中の子どもの姿を見る中で、保育者同士で最近の子どもたちの様子や、保育の相談等をすると、子ども理解だけでなく、保育の進め方や考え方、子どもへの関わり等についての共有にもつながります。

【ポイント】別の機会を作って改まって丁寧に伝え合ったり、相談するというよりも、少しの時間で立ち話する機会があると、目の前の子どもの姿があるので、具体的な話になりやすいです。

2．　子ども理解の共有　≪保育後≫

幼児理解から始まるカリキュラム・マネジメントのためには、

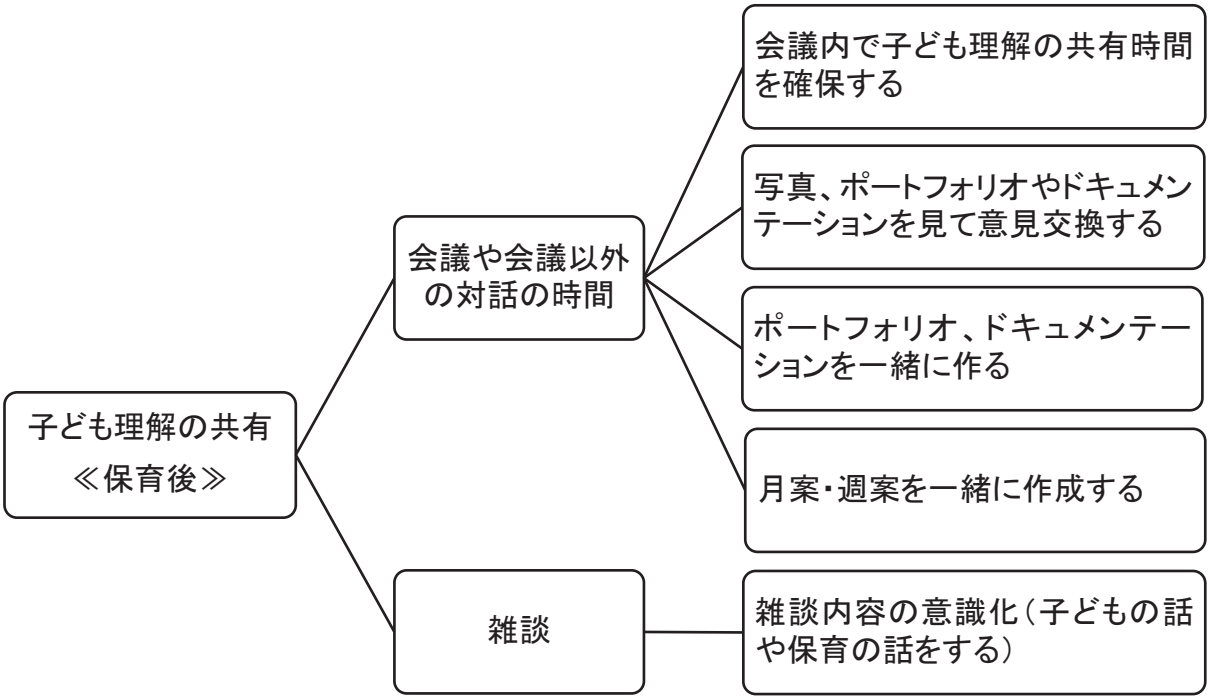
「何をしていたか」「どのようにしていたか」という行動だけでなく、
「子どもの育っていること」（5領域、10の姿等）を言語化する
そこから「次への手立て」を考えて、カリキュラムにつなげる

といったことについても、保育者同士で共有していくことが必要です。

何が育ってきているか

次への「手立て」をどうするか

そのために時間の確保とともに、何をどのようにすればよいかを整理したのが下記の図です。



○　**写真、ポートフォリオやドキュメンテーションを見て意見交換する機会がありますか？**
第１部の第１章から第３章で、子どもの写真、ポートフォリオやドキュメンテーションを使って、意見交換したり、どのような視点で子ども理解をするとよいか等を紹介してきました。

→　意見交換や対話することを通して、子ども理解の視点やポイント等が保育者間で共有されます。

○　**ポートフォリオやドキュメンテーション、月案や週案を一緒に作成する機会がありますか？**
ポートフォリオやドキュメンテーションは、保育を振り返るためのツール（手立て）でもあります。ポートフォリオやドキュメンテーションを担任一人で作るだけでなく、先輩等の慣れている保育者と一緒に作ることで、作り方のコツだけでなく、子ども理解の視点の共有にもつながります。

「どんなタイトルにしようか？」

【タイトル】

子どもの思い、考え（内面）つぶやき

子どもの言葉つぶやき

★「ドキュメンテーション」を一緒に作ってみよう！

○　作り慣れている先輩と後輩で、2～3人グループになる。
→「どんなことつぶやいていたかな？」「どんなふうにしていたかな？」「このときにどんなヒラメキがあったかな？」「どんな気づき・発見があったかな？」
等を対話しながら、一緒にドキュメンテーションを作ってみましょう。

【説明】

「何をしていたか」「どのようにしていたか」という行動だけでなく、「子どもの育っていること」（5領域、10の姿等）を意識して書いてみよう。
そこから「次への手立て」を考えてみよう。

同じように、月案や週案を担任一人で作るだけでなく、先輩等の慣れている保育者と一緒に作ることで、書き方のポイントだけでなく、その園で大事にしている保育の考え方や子どもへのかかわり方、保育の見通し等の保育者同士で共有できるだけでなく、子ども理解の視点の共有にもつながります。

第２章　子ども理解をカリキュラムに活かすには？

子ども理解を共有するだけでなく、それをカリキュラムに活かしていくためには、そもそも園内の「子ども理解」が各種カリキュラムにどのようにつながっているか、反映されているかを確認する必要があります。

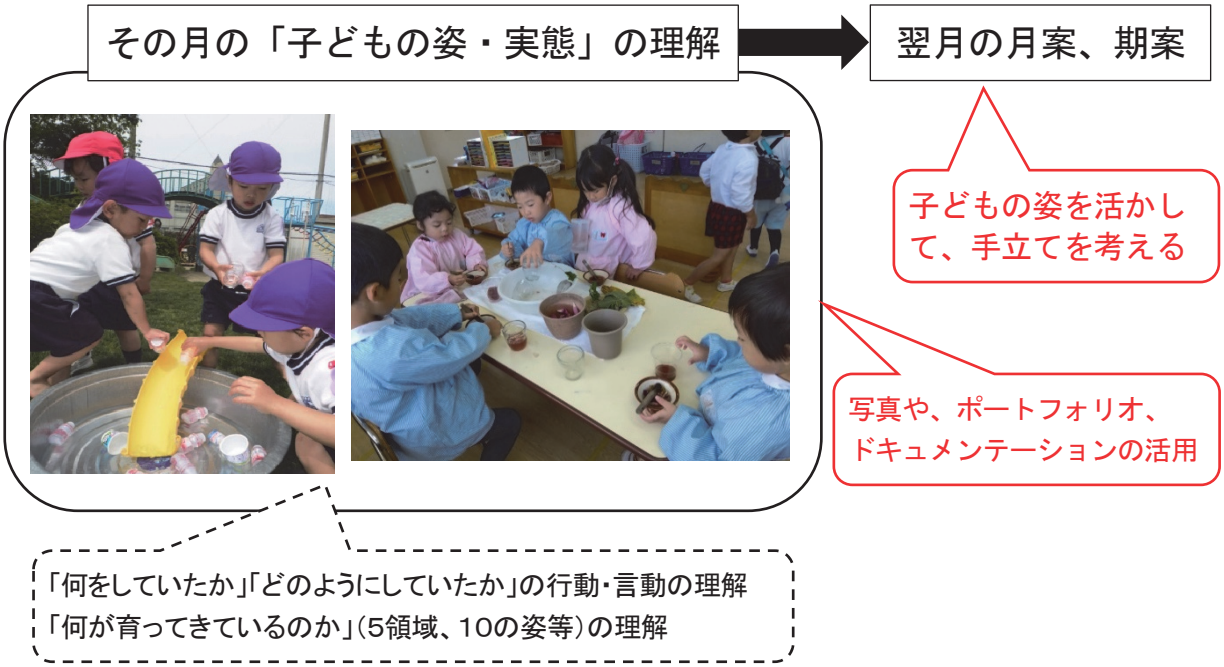
ポートフォリオやドキュメンテーション等を使った子ども理解は、どちらかというと短期的な視点で週案や月案等に活きてきます。しかし、期案、年間指導計画といった長期指導計画に子ども理解をどのように活かしていくかは、園によっていろいろあります。

この章では、それらを整理していきます。

１．「月案」の子どもの姿・実態の理解を、翌月以降の指導計画や期案に活かすために

（１）その月の「子どもの姿・実態」の理解

この図のように、その月の「子どもの姿・実態」の理解を、翌月の月案、さらに期案に活かしていくためには、その月の複数のポートフォリオやドキュメンテーション、保育場面の子どもの写真から、子どもの姿を振り返る必要があります。その月の子どもの複数のポートフォリオやドキュメンテーションから「育っていること（５領域、１０の姿等）」の理解を深め、「次への手立て」を考えていきます。



（２）２つのパターン

（パターン１）　月案の振り返りと自己評価

月末の振り返りと評価
（内容、子どもの姿）

翌月の指導計画
に活かす

ポートフォリオやドキュメンテーションの活用

（パターン２）　月案の振り返りと、期案の見直し

月の終わりに
子どもの姿を振り返る

次の月の活かせるよう
期案の見直し

ポートフォリオやドキュメンテーションの活用

（３）複数クラスがある園の場合、「振り返り」を共有するための方法

複数のクラスがある園の場合、本来、月の終わりに、他のクラスと経験や育ちの差がなかったのかの振り返りや共有が必要だが、その時間が持てていない現状がある。

そのため、下記のように「共有の機会」を持つとよい。

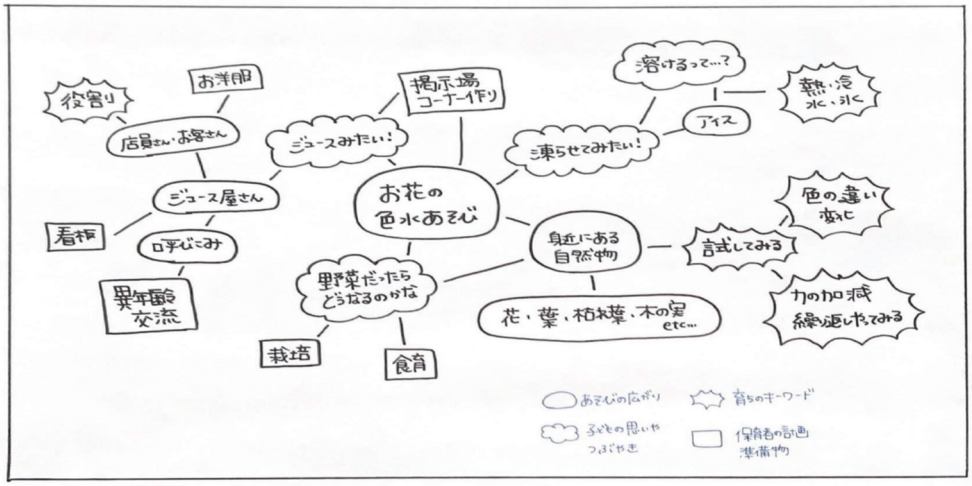
それぞれのクラスで
月案の振り返りをする

振り返りの共有の機会を持つ
（経験や育ち等）

その後の
月案や保育内容に活かす

複数クラスの共有方法としては、下記のように考えます。

○　各クラス、下の図のような「web 図」をもとに次の期案を立てる
○　月末に写真、ポートフォリオ、ドキュメンテーション等をもとに各クラスの子どもの姿を語り次の月につなげる
⇒　月の共有の後に、園の年カリ・教育課程とのずれ、違いがないか確認する時間を設ける。



２．年間指導計画・期案の見直しに、各期の子どもの姿・実態の理解をどのように活かすか？

（１）年間指導計画・期案の見直しの６つのパターン

一般的に「年間指導計画」には各期に分けて「子どもの姿」が書かれています。その子どもの姿はその学年の子どもたちの発達の特徴を表していたり、その園の例年の子どもの姿や実態を踏まえたものとして示されています。また、各期の「ねらい」は、「発達」「5 領域」「10 の姿」等を意識して子どもに育ってほしいことが示され、そのねらいに合わせて経験してほしいことを「内容」として示されています。

そこで、「年間指導計画・期案」の見直しにあたっては、「実際の子どもの姿・実態」をどのように活かすのかを具体的に考えていく必要があります。

子どもの姿：その時期の子どもたちの発達の特徴や例年の子どもの姿
ねらい：子どもの育ち（発達、5 領域、10 の姿等）
内容：ねらいに合わせたその時期の経験内容

年間指導計画 ← 実際の子どもの姿・実態

確認や見直しに活かす

ほぼ見直さない園もありますが、見直している園は、下記のパターンです。

このような子どもの姿は、年間指導計画や期案に示されている「子どもの姿」「ねらい」「内容」と結びついているかな？
ズレはないかなということを、確認し、見直しに活かしていく。

ここでは、各園の子どもの姿・実態をどのように年間指導計画の確認や見直しに活かすかについて、プロジェクトで出てきた４つのパターンを紹介します。

（パターン１）　「期の終わり」に写真を用意して、毎回振り返って、確認して修正を加えていく。

複数のポートフォリオやドキュメンテーションも活用するとよい

期の終わりに振り返る（その期の写真の共有） → その期の写真を使って期案との照らし合わせ → 見直して修正

（パターン２）　「月ごと」に毎月振り返って、確認して修正を加えていく。

複数のポートフォリオやドキュメンテーションも活用するとよい

月の姿の振り返り
（子どもの姿）の共有

育ちの確認

期案との照らし合わせ

（パターン３）「年度末・年度初め」に振り返って、確認して修正を加えていく。

複数のポートフォリオやドキュメンテーションも活用するとよい

1年間の子どもの姿（写真）
を残しておく

3月に年間指導計画と
照らし合わせて見直し

4月に新年度の
年間指導計画に活かす

★　年度末の「振り返り」のときには、次年度の学年の先生と集まって引き継ぐ機会を持つ。
①　1年分の「写真」「ポートフォリオ」「ドキュメンテーション」を見て、
年間指導計画や期案に示されている「子どもの姿」「ねらい」「内容」と結びついているかな？
ズレはないかなということを、確認していく。

②　年間指導計画を参照しながら、「今年育ったところ」を付箋で出し合う。
→「ここまで育っています」「こんな素敵な姿や力があります」
「ここもう一歩頑張ってほしい」を話し合いながら整理していく。
→　新年度の「年間指導計画」に入れ込む。

（パターン４）　３～４年に１度、年間指導計画を見直し修正する。

複数のポートフォリオやドキュメンテーションも活用するとよい

1年間の子どもの姿（写真）
を残しておく（3～4年分）

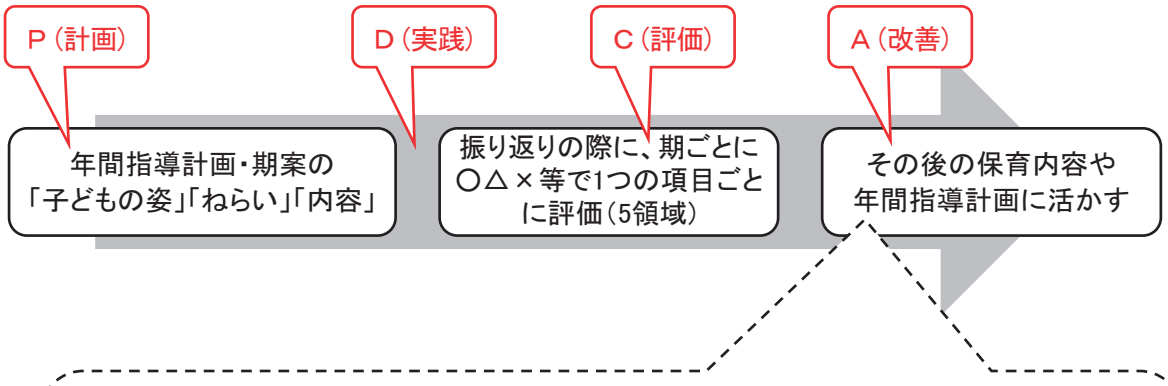
蓄積された写真を使って、
年間指導計画を見直す

次年度の
年間指導計画に活かす

3～4年分の「写真」「ポートフォリオ」「ドキュメンテーション」を見て、
年間指導計画や期案に示されている「子どもの姿」「ねらい」「内容」と結び
ついているかな？　ズレはないかなということを、確認していく。
→　それを踏まえて、「年間指導計画」を改訂していく。

（２）期ごとの「子どもの姿」「ねらい」「内容」の自己評価の方法の例

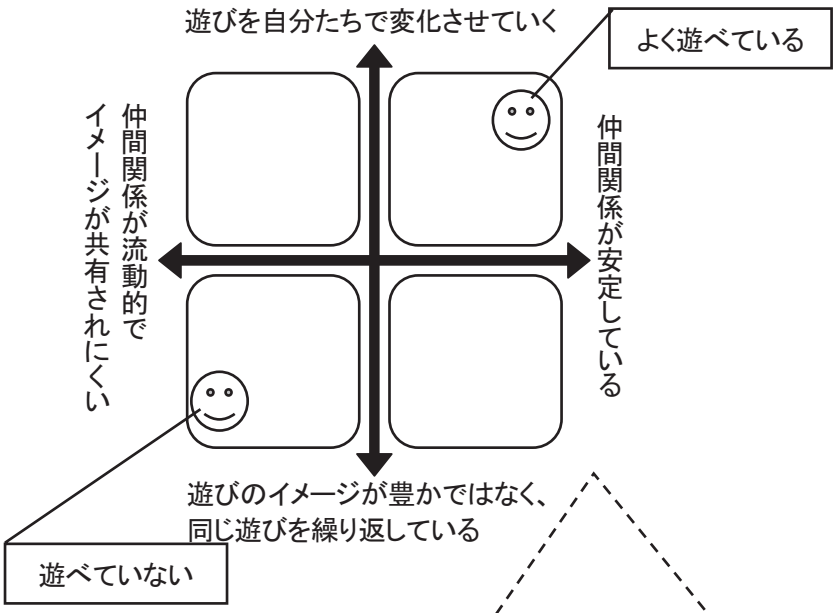
① 振り返りの際に、期ごとに「○△×」で自己評価する



（例） 担任が、○△×の自己評価をしてから主任に提出する（3月中旬）。
→ 主任が取りまとめて、その自己評価をもとに「年間指導計画」（仮修正版）を作成する。
→ 4月になってすぐに、学年ごとに集まって、「○△×の自己評価」と「年間指導計画」（仮修正版）を並べて、それをもとにミーティングを行う。
→ それを踏まえて、「年間指導計画」（改訂版）を完成させる。

② 子どもの姿を図にして現状を理解して職員間で共有する

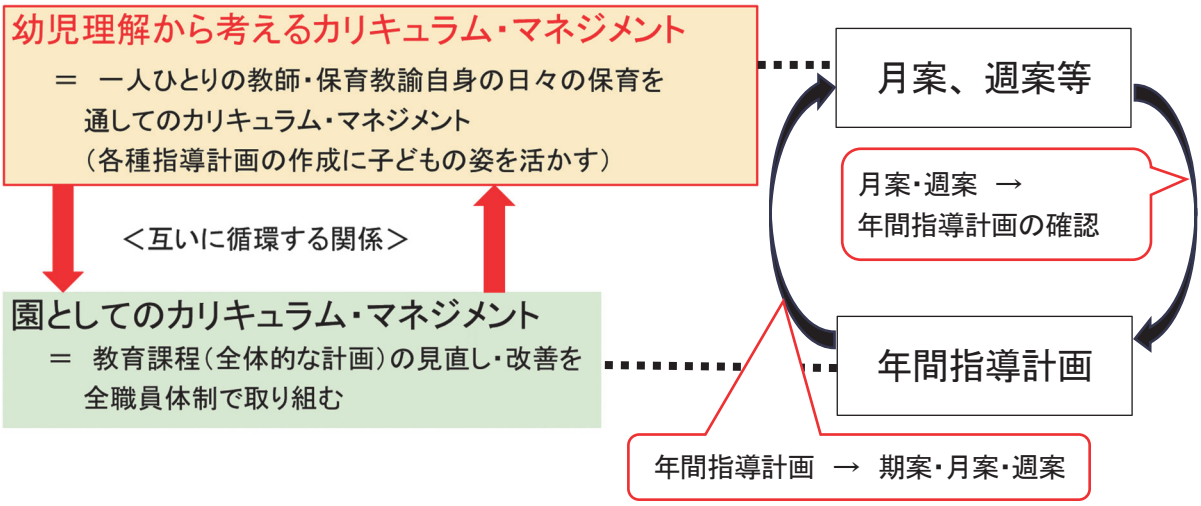
＊ 図のように「遊び」と「仲間関係」の軸で、個々の子どもがどの位置にいるか確認する。



○ 月に1回、クラスの子どもたちの名前を図の中に入れ込むことで、今月の遊びが停滞していた子どもや豊かに関わり合っていた子どもの姿を俯瞰的に見ることができる。
○ 子ども同士の関係を“線でつなぐ”ことで、関係性も図にできてわかりやすく、次月の手立てにつながります。

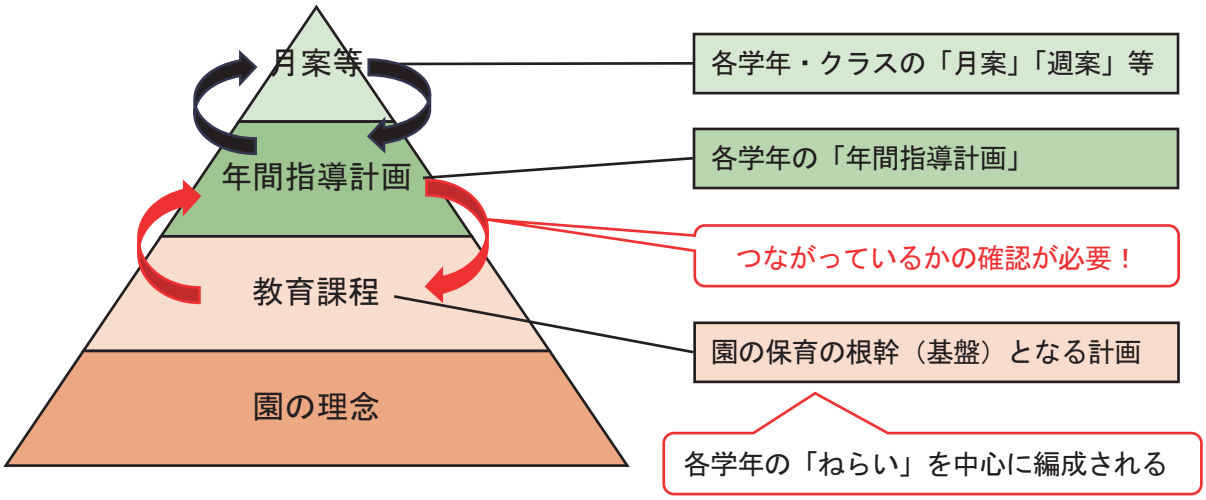
３．「月案」、「週案（週日案）」と、「年間指導計画」「期案」（期別指導計画）は、つながっていますか？

カリキュラム・マネジメントは、「幼児理解（子ども理解）から考える」だけでなく、教育課程（全体的な計画）を含めて各指導計画のつながりを考えて見直していく必要もあります。

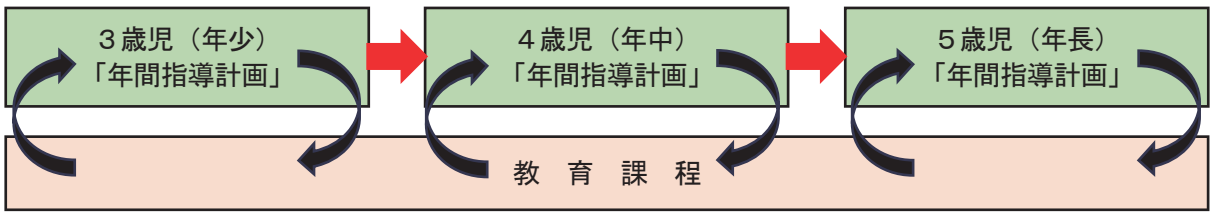


４．教育課程と年間指導計画のつながり

教育課程については、「年間指導計画」とどのように繋がっているかの確認する必要があります。



★ 各学年の「年間指導計画」は、発達や経験の連続性を踏まえて、つながっていますか？



おわりに

子どもを肯定的に見ることから始まる

第30次プロジェクトに参加された先生方、そして研究所のみなさま、２年間お疲れ様でした。「幼児理解（子ども理解）から考えるカリキュラム・マネジメント」は、「子ども理解からカリキュラム（指導計画）へ、そしてカリキュラム（指導計画）と子ども理解をつないで考え、カリキュラム（指導計画）の改善というサイクルを回していくこと」と言えます。

文部科学省『幼稚園教育要領』（平成29年）の言葉を借りれば、「評価と改善のサイクル」と言えます。この過程は、これまで日々の保育の中の当たり前の中に埋もれてしまい、なかなか実践研究として取り組まれることは少なかったと思います。そこに焦点をあてた２年間の研究は、私にとっても貴重で有意義な時間となりました。この２年間の取り組みの過程を整理しておきたいと思います。

１．トキメキの視点ー子どもを肯定的なまなざしで見る

この数年来、私は子どもの遊びを見る視点として「トキメキ、ヒラメキ・イメージ、気づき・発見・できた！」ということをいろいろな場・機会でお伝えしてきました。子どもの遊びの世界を「どんなことにトキメキながら、遊んでいるのだろう？」「遊びながらどんなヒラメキやイメージが生まれてくるだろう？」「遊びながら、どんな気づき・発見が生まれるだろう？」という視点を持って覗いてみようという提案です。これは、幼児期に育みたい資質・能力の視点を持って、子どもの遊びの過程を捉える視点でもあります。

そうすることで、実に豊かな子どもの遊びの世界を捉えることができ、子どもの内面理解にもつながります。そして、子どもの遊びの過程をミクロに見ることを通じて、資質・能力の３つの柱である「学びに向かう力・人間性等」「思考力・判断力・表現力等の基礎」「知識及び技能の基礎」によって子どもの遊びの世界を意味づけることができるのです。

一方、保育現場の指導計画（月案、週案等）の「ねらい」では、「～することを楽しむ」「～する楽しさを味わう」という表現がよく見られます。その遊びや活動を実際に子どもが「楽しんでいる」とき、子どもの心が動き、さまざまなトキメキを感じながら遊んでいる様子が見られます。そのため、子どもを理解（＝子どもの遊びや活動を理解）するためには、「トキメキ」の視点が出発点になります。一人ひとりの子どものトキメキを見つけるということは、子どものことを肯定的なまなざしで見ることにもつながります。

そこで、「トキメキの視点」（肯定的なまなざしで子ども見ること）からカリキュラム・マネジメントを考えていくことを、この研究プロジェクトの大きな方向性として提案したいと思ったのでした。

2．研究プロジェクトを進めるにあたり意識したこと

① 「幼児理解（子ども理解）」「カリキュラム・マネジメント」という言葉について、
プロジェクトに参加された先生方とともに考えていく。
What？（何か？　どういう意味か？）　Why？（どうして？　なぜ？）
How？（どのように考えるとよいか？　どんな視点を持つとよいか？）
→ 参加者同士のドキュメンテーションを持ち寄り、グループワークでこれらの観点をもって対話しながら、意識していることや暗黙知、実践的な知恵や工夫を出し合う。

② 「子ども理解から始まるカリキュラム・マネジメント」という言葉について、①と同じように、「What？」「How？」「Why？」をプロジェクトに参加された先生方とともに考えていく。
→ 参加者同士のドキュメンテーションや、指導計画（年間や月案、週案等）を持ち寄り、グループワークでこれらの観点をもって対話しながら、意識していることや暗黙知、実践的な知恵や工夫を出し合う。

①②でわかったことを、各園内でどのように共通理解をしていくとよいのかをプロジェクトに参加された先生方とともに考えていく。

3．研究プロジェクトの取り組みの実際

（1）初年度（2022年度）

① 「子ども理解」にあたって大事だと思うことの整理
② 「子どもの遊びを理解する」ときの視点
→ 子どものどのような姿に視点を置いて読み取っているのか
③ ドキュメンテーション等の「記録」を書くにあたって、どのようなことを大事にするとよいかの検討
④ 「遊びや活動の次への見通し」「具体的な手立てを考える」ときにポイントになりそうなことは何か？
⑤ ドキュメンテーション等の「記録」と、「指導計画」との結びつきについて、どう考えるとよいか？

これらの成果を４つのグループに分かれてまとめて、2022年度末の大研大会で発表しました。

（2）２年目（2023年度）の研究にあたり意識したこと

１年目の研究でわかったことと、新たに生まれてきた疑問を踏まえて、2年目の研究をスタートするにあたり、次のことを押さえて方向性を決めていきました。

① 「子ども理解」について

■ **幼児理解（子どもの姿の読み取り）には、先生によって差がある**

⇒ 話し合うことで幼児理解の視点やコツの共通理解ができるけれども、
「どんなことを話すか」という内容や視点が大事

⇒ ポートフォリオやドキュメンテーションを使って対話することで、
担任だけの視点だけでなく、他の視点からも気づくこともある。

対話のときに、どんな対話内容や視点があるとよいのだろうか？

■ **子どもの姿の視点 ― 興味・関心、トキメキ、ヒラメキやイメージ、友達との関わり、集中**

⇒ 子どもの「トキメキ」（心の動いた瞬間）を見つけ、
「何を感じているのか」を読み取り、「育ち」（10の姿の活用）を考える。

心の動いた瞬間って、どうやってみつけるか？

どうやって活用すればよいか？

② 「振り返り」について

■ **「振り返り」とは、「やってみて子どもの反応は？」「次にどうつなげるか？」を考えること。**

子どもの反応って、どうやって振り返るとよいか？ どのように記録に書くとよいか？

■ **振り返りの方法**

○ 視覚化 ― 写真を入れる、ポートフォリオやドキュメンテーションを記録として活用する

○ 振り返りの内容の記録 ―「どんなトキメキがあったのか？」
「どんなヒラメキやイメージが生まれてきたのか？」を記録に入れる。

○ 次にどうつなげるか？
―「ヒラメキやイメージが持続するには？」
「新たなヒラメキやイメージが生まれるには？」

日案でも、週案でも、月案でも、具体的にどう考えて入れればよいか？

③ カリキュラム・マネジメントの流れ

保育者間で情報共有したり、育ちを共有するために、どうすればよいか？

■ **遊びや活動の次への見通しへ**

「子どもの姿・遊びの様子」と「保育者の視点」（５領域、10の姿）

⇒ 「見通しを持つ」（翌日～１週間後～１か月後：短期の見通し・長期の見通し）

⇒ どんな「手立て」が必要かを考えて、具体的な環境構成や保育者の関わり方（援助・配慮）を見通していく

⇒ 指導計画へ反映していく

「どんな手立てが必要かを考える」って、１年目の先生でもわかりやすくて考えるヒントや手がかりはあるのだろうか？

以上を踏まえて、本研究で考えていきたい「幼児理解から考えるカリキュラム・マネジメント」では、「子どもの姿を肯定的に読み取り、手立てを考えていくような過程を大事にする」ことを共通確認しました。これは、言い変えれば、「子どもの思いを中心としたカリキュラム・マネジメント」とも言えます。

4．おわりに

第30次プロジェクトでは４つのグループに分かれて取り組んできましたが、どのグループも「子どもの思いを中心としたカリキュラム・マネジメント」のために保育中の子どもの写真、保育後に作成するポートフォリオやドキュメンテーションを活用していくことを提案しています。そして、子どもの姿を肯定的に読み取り、手立てを考えていくような過程を大事にして、指導計画に活かしていくことを各グループの視点でまとめています。また、そのための記録や週日案の改善の提案もしています。

文部科学省『幼稚園教育要領解説』（平成30年）によると、「カリキュラム・マネジメントとは、各幼稚園の教育課程に基づき、全教職員の協力体制の下、組織的・計画的に教育活動の質の向上を図ること」と示されています。この研究紀要でまとめたように、写真、ポートフォリオ、ドキュメンテーションを活用して「子ども理解の視点」を園内で共有したり、それらを月末・学期末や年度末に月案や年間指導計画等の振り返りと改善に活用したりすることで、「全教職員の協力体制の下、組織的・計画的に教育活動の質の向上を図る」ことになります。

この研究紀要を各園で活用していただき、「子どもを肯定的に見ること」「子どもの姿を肯定的に読み取り、手立てを考えていくような過程」を踏まえて、「子どもの思いを中心としたカリキュラム・マネジメント」が広がることを願っています。

第30次プロジェクトに参加された先生方、そして研究所のみなさま、２年間お疲れ様でした。そして、第30次プロジェクトの皆様とともに研究を進め、研究紀要として形にまとまったことに感謝と喜び、そして誇りを感じております。ありがとうございました。

第30次プロジェクトチーム　研究紀要

2024年３月発行

発行者　理　事　長　奥野　宏
教育研究委員長　杉本圭隆
教育研究所長　岡部祐輝

発行所　一般社団法人　大阪府私立幼稚園連盟教育研究所
大阪市都島区網島町６－20　大阪私学会館
電話　06-6351-5574㈹

印　刷　川西軽印刷株式会社